

令和6年第15回教育委員会定例会

開会年月日 令和6年8月9日（金）

場 所 教育委員会室

出席者 教育委員会 教育長 三 浦 康 彰
同 委 員 森 山 瑞 江
同 委 員 仲 山 英 之
同 委 員 岡 田 行 雄
同 委 員 小 林 三 保

議 題

1 議案

(1) 議案第25号 練馬区立中学校教科用図書の採択について

2 陳情

- (1) 令和6年陳情第1号 教科書採択にあたってより多くの教職員から意見を聞き、採択に反映させることを求める陳情書〔継続審議〕
(2) 令和6年陳情第2号 中学校教科書採択に関する陳情書〔継続審議〕
(3) 令和6年陳情第3号 中学校教科書採択に関する陳情〔継続審議〕

3 協議

(1) 旭丘・小竹地区における新たな小中一貫教育校の設置について〔継続審議〕

4 報告

- (1) 教育長報告
① その他

開 会 午前 10時00分

閉 会 午後 2時23分

会議に出席した者の職・氏名

教育振興部長	佐 川 広
教育振興部教育総務課長	枝 村 聡
同 学務課長	杉 山 賢 司
同 学校施設課長	柴 宮 深
同 保健給食課長	唐 澤 貞 信

同	教育指導課長	山	本	浩	司
同	副参事	佐	藤	勝	也
同	学校教育支援センター所長	村	瀬	美	紀
同	光が丘図書館長	小	原	敦	子
こども家庭部長		関	口	和	幸
こども家庭部子育て支援課長		脇		太	郎
同	こども施策企画課長	河	野	一	真
同	保育課長	岡	村	大	輔
同	保育計画調整課長	山	口	裕	介
同	青少年課長	小	島	芳	一
同	子ども家庭支援センター所長	橋	本	健	太
同	在宅育児支援担当課長	長	岡		毅

教育長

ただいまから、令和6年第15回教育委員会定例会を開催する。

教育振興部長

本日、教育施策課長は欠席とさせていただきます。

教育長

案件に入る前に、本日の審議環境についてご説明をさせていただきます。

本日の会議については、傍聴を希望される方が多数いらっしゃったため、抽選を行った。抽選の結果、本日は18名の方がこの教育委員会室において傍聴していらっしゃる。また、抽選に当たらなかった方には、控室を設け、審議の様子を音声にて放送する。適切な審議環境を守るため、会場を広くすることはできないが、より多くの方に教科書採択の様子をお伝えするため、控室での音声放送という形で設定をさせていただいた。

各委員にご異存がなければ、このまま進めさせていただきたいが、いかがか。

委員一同

はい。

教育長

本日、8月9日は長崎に原爆が投下された日である。原爆が投下された11時2分になったら、死没者のご冥福と世界恒久平和を祈り、黙祷をささげたいと思う。皆様のご協力をよろしくお願いします。

それでは、案件表に沿って進めさせていただきます。

本日の案件は、議案1件、陳情3件、協議1件、その他1件である。

まず、本日の会議の進め方についてお諮りする。

議案第25号 練馬区立中学校教科用図書の採択については、陳情の後に審議を行いたいと思うが、よろしいか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、そのようにさせていただきます。

- (1) 令和6年陳情第1号 教科書採択にあたってより多くの教職員から意見を聞き、採択に反映させることを求める陳情書
- (2) 令和6年陳情第2号 中学校教科書採択に関する陳情書
- (3) 令和6年陳情第3号 中学校教科書採択に関する陳情

教育長

初めに、陳情案件である。

本日は、教科書採択に関する陳情である令和6年陳情第1号から第3号の3件について審議を行い、結論を出したいと考えている。

陳情については、それぞれ複数の項目があるが、全て教科書採択に関するものなので、項目ごとではなく、一体的にご意見を伺い、採択または不採択の判断についても総合的に判断をする一括審査としたいと思うが、よろしいか。

委員一同

はい。

教育長

では、そのようにさせていただく。

なお、令和6年陳情第1号、令和6年陳情第2号については、本日、事務局から新たに資料が提出されている。これは、7月12日に開催した第13回定例会および7月26日に開催した第14回定例会において、仲山委員から資料要求があったものである。

これから審査を行う陳情全体に関わる内容と思うので、各陳情の審査に入る前に、まずはこちらの資料について説明をお願いする。

教育指導課長

資料に基づき説明

学校教育支援センター所長

資料に基づき説明

教育長

それでは、本日提出された資料について、各委員のご意見、ご質問があればお伺いする。

仲山委員

資料2、3と説明を聞いて、現在の採択システムになった経緯と理由に関して非常に妥当であり、納得した。

このシステムになってから何回も採択が行われているわけではない。そうすると、見直しをするには時期が早いかと思うし、こうなった経緯を今のところ理解しているので、現在のシステムで問題ないのではないかと思います。

それから、展示会関係について、法的条件や、出版社から何冊送ってもらうことができるか、といった現在のいろいろな条件の下では、できる限りのことをしているのではないかと感じた。

ただ、なかなか納得がいかない方もいらっしゃると思うので、展示会場には、条件

がいろいろあって、例えば、今ここには置かれていない本もあるというようなことが分かるように周知したほうがいいのではと感じた。

森山委員

教科書採択は、教育委員会の職務権限の中でも極めて重要な職務であり、真にその教科書が児童生徒の学びに資するものであるという視点に立って、慎重に選択をしなければならないと考えている。

中学校教科書採択に当たっては、校長、副校長、教員、保護者から成る委員の方々からの丁寧な調査研究を拝見した。学校教育支援センターでの見本本の法定展示会、特別展示会、区独自の図書館3館での展示は延べ41日間であり、23区の教科書展示会開催会場延べ日数においても決して少なくはないと思う。

展示会に寄せられた意見は59名、66枚に上って、こちらも丁寧に読ませていただいた。教員からの意見もとても熱心に書かれており、教育現場の教える側の意見もしっかりと読ませていただいた。

このように、多くの立場の皆様からのご意見を熟読し、尊重しながら検討してまいったので、陳情意見について採択の必要はないのではないかと考える。

教育長

陳情についてのご意見をいただいたが、それはこの後、一つずつやっていこうと思う。取りあえず今の段階で資料について何かあるか。

先ほど説明で、見本本の送付というのは各教科書発行者の責任と判断の下に行われるということだが、仮に区が、送付される冊数が少ないため、独自に購入してそろえることは可能か。

学校教育支援センター所長

教科書の見本本は発売前の本になるので、区で購入して用意することは不可能な状況である。

教育長

非売品とのことである。

資料についてのご質問は、ほかにいかがか。

岡田委員

資料3について確認をさせていただきたい。別紙2の2番、延べ日数は分かったのだが、それぞれの教科書の展示会場にいらっしゃった区民の方や先生方の合計人数を教えていただければと思う。

学校教育支援センター所長

今回の展示会にご来場された人数は合計で135名。今回ご意見を出していただいた人数は、59名である。

教育長

よろしいか。

それでは、陳情の審査に入らせていただきたいと思います。

令和6年陳情第1号 教科書採択にあたってより多くの教職員から意見を聞き、採択に反映させることを求める陳情書についてである。

令和6年陳情第1号について、各委員のご意見をお伺いできればと思う。

岡田委員。

岡田委員

今まで資料などを用いてご説明いただいた。私たち教育委員は、区長が議会の同意を得た上で任命されて、法に基づいて教科書の採択を行っている。ご承知のように、5名の教育委員は、教育長のほか、学校教育に長く関わってきた者、学識経験者、地域活動に長い期間関わってきた者、保護者の代表などがいるが、それぞれが活動の基盤となる背景や専門性から教育行政の在り方について議論している。

教科書採択においても、一人一人の教育委員がそれぞれの専門性の下に、長時間にわたって幅広い観点から教科書について検討してきた。検討に当たっては、区民の皆さん、教員の方々の意見も全て熟読し、必要があれば調査もしていただいた。また、教科書協議会からの答申も拝見し、その結果と私たちの検討結果を重ね合わせながら、採択に関する調査研究をしたところである。

また、教科書協議会や教科書調査委員会には、教科指導の専門家である校長、副校長や教員の先生のほかに、保護者代表もいらっしゃると思っています。

このように、様々なご意見をいただきつつ、私たちは自分の責任において、区の生徒のためによりよい教科書を検討してきた。全ての区民や教員から意見をいただくことは現実的ではなく、1か月に及ぶ教科書展示会を活用して意見を出していただいたり、さらには、教科書協議会で調査研究をしたりする現行の仕組みの中で教科書を採択していくことが、多様なご意見を踏まえた上で採択できることにつながると考えている。

いただいたご意見の中には、既に取り組んでいるもの、受け入れられないものなど、様々なご意見があるが、私たち教育委員の与えられた権限の中で真摯に検討し、対応してきた。そのことを冒頭で申し上げた上で、各陳情について意見を述べさせていただきたいと思います。

陳情1について、今申し上げたとおり、採択の仕組みの中で、区民の方や先生方のご意見を十分に伺いながら検討してきた。また、区では、法定で定められた期間、教科書が閲覧できるようになっている。具体的な教科書の出版社名を挙げたご意見については、様々なご意見があるので、このまま受け入れることはできないと考えている。

小林委員

様々な方々の意見を尊重してほしいという陳情について、以前やっていた教職員の皆様からのご意見は、やはり現実的ではなく、先生たちの負担が大きいと思う。保護者代表として、先生たちの負担が大きいということは、直結して、生徒たちに十分な

教育ができない可能性があるのではないかという不安を感じる。

そのため、組織を結成していただき、教育委員会で採択をするという現行のやり方が、子供たちにとってよりよい教科書が選ばれる方法なのではないかと思う。

仲山委員

先ほどの資料のご説明、それから、今のお二方の考えに私も同意する。十分この意見は尊重すべきだとは思いますが、不採択が妥当だと思う。

教育長

森山委員は先ほど考えを述べていただいたので、そういう形でよろしいか。

森山委員

はい。

教育長

それでは、一通りご意見をいただいたので、ここでまとめたいと思う。

この陳情については、教育委員会として既に取り組んでいる内容もあるが、受け入れることのできない内容も含まれていると考える。このため、令和6年陳情第1号については不採択としたいと思うが、よろしいか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、令和6年陳情第1号は不採択とさせていただく。

次に、令和6年陳情第2号について、各委員のご意見をお伺いしたい。

仲山委員

今回の陳情は、採択の仕組みのこと、実際の教科書のどういうところに注目して採択してもらいたいかという、その2つにまとめられると思う。先ほどの資料の説明を参考にすると、現状できることをともかくやっているということ、それから、特定の教科書の採択に関する意見が出ているが、一つの意見としては尊重したいが、ここでそれを認めてしまうと、展示会等で寄せられた反対意見を完全に無視してしまうことになるので、この意見は意見として、ほかの意見と同様に十分参考にはする。そういう意味で、不採択が妥当であろうと思う。

岡田委員

私も仲山委員のご意見に賛成する。項目の1と2については、既に私の意見を説明したとおりなのだが、3と4についても、具体的な教科書会社名を挙げている点はふさわしくないと思う。やはり平等に教科書を調査するという観点で、採択しないほう

がよろしいかと思う。

教育長

それでは、ここでまとめさせていただきたいと思う。

この陳情については、教育委員会として既に取り組んでいる内容もあるが、受け入れることのできない内容も含まれていると考える。このため、令和6年陳情第2号については不採択としたいと思うが、よろしいか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、令和6年陳情第2号については不採択とする。

次に、令和6年陳情第3号について、各委員のご意見を伺う。

仲山委員

この陳情も、採択の過程に関する陳情と、教科書採択の具体的なことに関する内容の2つになっているが、前半のほうは先ほどの陳情第1号、第2号と同じような内容により、ここだけ見ても採択には当たらないと思う。

教科書を選ぶに当たって、こういうことを配慮してほしいということで、これは本当に大変尊重すべき意見であると思う。ただ、ここでそれを受け入れてしまうと、採択の基準の一部が決まってしまうことになる。やはり区民の方の多様な意見を無視してしまうことになるため、参考にして尊重はするが、不採択が妥当だと考える。

小林委員

展示会について、文部科学省の規定に基づき、区では4月1日4か所で開催しているため、陳情書については不採択でいいかと思う。

ただ、この開催されているということを知っている保護者がすごく少ないのではないかと思う。あわせて、これから周知の努力も続けていただきたい。

岡田委員

この陳情に関しても、陳情項目の1と3については他の陳情と重なる部分があるので言及しないが、2については、仲山委員が先ほどお話をされたように、一つの基準を示すことになりかねない。例えば、二次元コードに関して、これを採択したときには一つの基準となり得る。二次元コードに関しては様々な考え方があると思うので、いろいろなご意見を伺うことができるという意味でもこれはふさわしくないと考えている。全体として不採択にしたいと思う。

教育長

ここでまとめさせていただく。

この陳情については、前の2つと同様で、教育委員会として既に取り組んでいる内容もあるが、受け入れることのできない内容も含まれていると考える。このため、令和6年陳情第3号については不採択としたいと思うが、よろしいか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、令和6年陳情第3号については不採択とする。

以上で陳情審査を終了する。

(1) 議案第25号 練馬区立中学校教科用図書の採択について

教育長

次に、議案第25号の審議を行う。

資料1をご覧くださいと思う。この教科用図書の採択は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第21条の規定により、教育委員会の職務権限になっている。採択に当たって、教育委員会では4月に中学校教科書協議会に諮問を行い、7月26日開催の第14回定例会において同協議会から答申を受けた。

また、教育委員会では、各委員がそれぞれ教科用図書の審査・研究を行ってきた。

本日は、各委員から、種目ごとに推薦する教科用図書の発行者名を発言していただき、審議していきたいと考えている。

本日は、全部で16種目の教科用図書を採択する。種目の審議順序は、国語、書写、社会の地理的分野、社会の歴史的分野、社会の公民的分野、地図、数学、理科、音楽の一般、音楽の器楽合奏、美術、保健体育、技術・家庭の技術分野、技術・家庭の家庭分野、英語、道徳の順といたしたいと思う。

本日の採択については、各委員から第1候補および第2候補として推薦する発行者名、理由についてご発言をいただきたいと思う。推薦する発行者は、第1候補のみでも構わない。また、第3候補以上の推薦でも構わない。

基本的に、第1候補として推薦する委員が多い発行者1社を採択する。ただし、第1候補が同数の場合は、第2候補とする委員が多い発行者を採択する。

ここで、種目ごとの各委員の発言順序についてお諮りする。最初の種目である国語については、森山委員、仲山委員、岡田委員、小林委員の順に推薦する発行者名についてご発言をいただき、委員全員のご意見を確認したいと思う。その後は、最初の発言者を種目ごとに、仲山委員、岡田委員、小林委員、そして再び森山委員からといった順序で変更していく形で進めたいと思うが、いかがか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、そのように進めさせていただく。

なお、12時を過ぎる場合は一旦休憩を入れさせていただき、13時以降に続きを行いたいと思う。

なお、教科書採択全般にわたるご意見がある場合は、国語の前にご発言をいただければと思う。

では、初めに、国語である。森山委員、お願いします。

森山委員

教科書の特質について、教員の使いやすさ、生徒の使いやすさ、これからの時代に求められる学び方との関係等についてを視点とし慎重に選定させていただいた。

その基本的な心構えとして、教科書から学ぶことが、その人のその後の人生、つまり考え方、生き方、進路、キャリアにつながる教科書選択であることである。

実際に私の経験として、今でも忘れられない詩に、何年もの時代を超えて今回の教科書採択で再び出会えたものがあつた。特にその教科書を選んだわけではないが、それだけ発達期の生徒の心に残るものと考え、慎重に選ばせていただいた。

また、どの教科書にも、ICTの充実、二次元コードでの動画、俯瞰図、朗読、発音等の膨大な学習素材が配されていた。ICTを活用して、主体的・対話的で深い学びの実現と、今までできなかった学習活動の実施や、家庭など学校外での学びを充実させていただきたいと思った。

それでは、国語についてである。国語の学びとは、言葉で表現し理解することを通じて、言葉の働きを捉えるとともに、自分の思いや考えを形成し、深めることであろうと思う。国語という教科書の特質を捉え、生徒が語彙を豊富に獲得することができる教科書であるか、話す、聞く、書く、読むなどの活動場面が用意されていて、数多く経験できる教科書を選定させていただいた。

第1候補に三省堂、第2候補に光村図書を推薦する。

三省堂に関しては、必ず学習する本編と必要に応じて活用する資料編に分かれており、本編で効果的に言葉の力を身につけられるようになっていた。資料編では実践的な方法や社会生活で役立つ知識がまとめられていた。3学年を通じて「思考の方法」という見出しがあり、「「問うこと」から始めよう」とあつた。そして、常によく考えるということはどういうことか、その方法が具体的に示されていた。

つけたい力、領域別教材一覧では、単元ごとに知識・技能・思考力・判断力・表現力の一覧がついていた。

1年生の詩「朝のリレー」では、これまでの自分の小さな世界から大きな世界に目を向ける、いよいよ中学生になったのだということを意識させる詩ではないかと思った。

また、「私とは何か」、平野啓一郎著だが、個人から分人への視点に気づく、考える

ことは、この時代にはとても大切だと思った。

次に、光村図書である。こちらの教科書も、「学習の見通しをもとう」と、単元ごとの思考・判断・表現、他教科やSDGsを意識させる表が掲載されていた。こちらにも、「思考の地図」で、考えを広げる、整理する、深めるヒントが掲載され、課題や自分の考えを深めることと目的があった。それぞれの単元では、この思考・判断・表現を基に、読み解き方や自身の考えを深める内容となっていた。

3年生の評論では、現代のSNSや国際関係といった現代の課題にも触れ、考えをさらに深められる内容であったと思う。

また、古典では、フォントを変えることで味わいがあり、今後も古典に興味を持つように配慮されていた。

教育長

続いて、仲山委員、願います。

仲山委員

採択の作業に関わらせていただき、感じたことをまずお話しさせていただく。

教科書は、開いたときに知的好奇心が湧き、実際勉強すると、今度は知的充足感が得られるものであってほしいと思う。今回、どの教科書も基本的にはその方向であり、説明が丁寧で、たくさんの資料を提示し、かつ、写真やイラストがきれいで、大変力を入れて作られていると感じた。

しかし、その反面、丁寧に作られた結果だと思うが、極めて重い、ずっしりした教科書になってしまっており、これは改善すべきことであると思う。昨年教育委員会として学校を訪問したとき、子供たちからも改善を求める声があった。同様の意見は、今回の教科書展示会に参加した保護者からも複数寄せられている。

軽くする一つの案だが、デジタルコンテンツのほうに資料の大半を移行するような形でぜひ軽量化を進めてもらいたいと思う。また、机の上に置きやすいように、サイズも小さくしたほうがよいのではないかなと思う。

また、もう一つ出版社への要望だが、勉強についていけず、授業がつらい生徒を出さないために、また、ついていけなくなったときに途方に暮れないよう、積み重ねが必要な科目については、その先の学習に必要な最低限のことが何なのか分かる教科書を作成してもらいたいと思う。

今回の選択に当たっては、中学校教科書協議会の答申、教員からの意見、教科書展示会や陳情で寄せられた意見を十分に参考にした。異なる分野に基盤を持つ教育委員同士の意見交換も行った。また、展示会の中にあつたが、1つしかない意見で重要と考えられるものに対しては、セカンドオピニオンも得て最終判断をした。以上が全体的に感じたことである。

国語についてだが、学習指導要領によると、国語を適切に表現し、正確に理解する能力、伝え合う力、言葉を手がかりにした論理的な思考や想像力を高めることが目標になっている。一方で、国語は他の教科に比べ、毎回の授業で何を学んでいるかが把握しづらいように感じる。それゆえ、何を学ぶのかが分かりやすい教科書であってほ

しいと思う。

これらのことを踏まえて、第1候補に光村図書、第2候補に三省堂を推薦する。

光村図書は、国語でどんな学習をして、どんな力を身につけるかが明確に示されている。取り上げている作品が生徒の興味を引くものが多いと感じる。それから、思考法に関する説明が分かりやすいと感じた。また、発展学習が多く用意されているので、教師の判断で効果的に使えるのではないかと感じた。

「枕草子」を学んだ後、自分流の「枕草子」を書こうは、古典に親しむ態度を育成するのに効果的な手法であると思った。

三省堂は、読むことで身につけた知識・技能を活用して、話すこと、聞くこと、書くことにつながる構成になっている点はよかったと思う。また、思考の方法を紹介し、思考力と創造力を高める工夫があった。

教育長

続いて、岡田委員、願います。

岡田委員

中学校の教科書の採択に当たり、私の教科書に対する考え方を少し述べさせていただく。

教科書は、主たる教材として授業で使われている。教員は、教科書を用いて授業を組み立てたり、生徒は、学習を進めるツールとして教科書を用いたりしている。教科書の教員へ及ぼす影響を考えたとき、教材として授業で用いただけにとどまらず、授業の質に大きな影響を及ぼすものと私は捉えている。知識を羅列して、参考書的な教科書では、どうしても教え込みになりがちな授業展開に、また、生徒に疑問を持たせ、自分で考えさせる内容が多い教科書では、生徒の個性を生かした探究的な授業展開になると考えている。

また、令和2年度に採択された教科書と今検討している教科書の違いであるが、練馬区中学校教科書協議会からいただいた答申で、1つ目は、デジタルコンテンツが充実し、課題解決やつまずきの解消に役立ったり、不登校の生徒が活用して、家庭学習ができる環境整備が行われたりしたこと、2つ目に、協働的な学びを促す話し合い活動やまとめが充実したこと、3つ目に、小学校の学習内容との接続や、SDGsで教科横断的な扱いが増えたことなど、大きな変化があることが分かった。

このように、令和2年から現在までの4年間で教科書も大きく変わってきたので、生徒にとってふさわしい教科書を、これらの観点に基づいて検討する必要があると思う。

さらに、学校教育で求められている個別最適な学びと協働的な学びの充実は、現在の学習指導要領で強く求められているところだが、これが言葉だけではなく、教科書の中に強く表れてきたと私は捉えている。

加えて、時代の要請として、学校が対応すべき様々な課題がある。例えば、環境問題、SDGs、LGBTQへの教科書の関わり方や、様々な障害がある生徒への配慮も大切な視点で、先ほど申し上げたとおり、今回の教科書では、これらが今まで以上

に強く取り上げられていた。

このような変化に対応した視点の重視とともに、従来からの課題も大切にしたいと考えている。例えば、この教科やこの学習内容をなぜ学ぶのかという子供たちの疑問を大切にした教科書という視点である。なぜ学ぶのかといった、学ぶ意義を理解した学習は、大きな力を生徒に与える。私はこのように考えて、教科書の採択の視点として教科書を検討した。

次に、国語についての意見を述べる。第1候補に光村図書、第2候補に東京書籍を推薦する。

時間の関係で、光村図書の推薦理由だけにとどめさせていただくが、光村図書では、領域別教材一覧が教科書の冒頭部にあって、学習の目標やつけたい力を教材名とともに読み取ることができる。これは、教材や他教科との関連までを見通しながら学習できる一覧になっている点が高く評価できるものと思う。また、教師にも生徒にも学習の目当てをつかむのに非常に役立つ資料であると思う。

2つ目だが、学習の全体像を示している「学びのカギ」と「学びへの扉」がある。教材の中心となっている課題が生徒にも教師にも明確になっていて、学習を進めやすい構成であると思う。

QRコンテンツの「学びの地図」で、学習の結果何を身につけたかが一目で分かり、さらに検索もできるので、過去の学びを振り返り、課題解決に取り組めることもとてもよい点だと思う。

また、このQRコンテンツの充実などにより、2025年以降の全国学力・学習状況調査もCBT形式が導入されていくということで、これに対応した形になっており、これも推薦の大きな理由となった。

教育長

では、小林委員、お願いします。

小林委員

今回教科書採択に当たり、文部科学省の検定を受けた教科書はどれも素晴らしいもので、各社の工夫が施されていると思った。

私の立場から、どの教科書を一番に選ぶかは、本当に至難だった。研究報告書や答申を何度見返しても、見れば見るほど、どの教科書も一定の成果を得られるようなつくりになっているのではと思うばかりで、採択の基準を自分の中で定めるのに大変苦労した。

ただ、子供たちの興味関心を引くようなポイントのある教科書はどのようなものだろうか、子供たちの探究心というものはこれからの日本を支えていく基盤になるのではと思い、どの教科書が一番目を引くかという視点で、私は教科書を選択した。

学校に通う子供たちが平等に学習するためのツールとして、教科書が存在していると思う。学ぶ側にとっても、教える側にとっても、よりよい教科書が選ばれることを望んでいる。

それでは、国語についてである。第1候補に私は三省堂を選んだ。デジタルコンテ

ンツが多く、付録として資料編がついていて、教材が豊富と感じた。単元の中盤で知名度のあるアーティストを記載しているところなど、子供たちの興味関心を引きやすいのではないかと思います、選んだ。

第2候補は光村図書である。SDGsと関連させていて、一人一人が学びを生かせる内容になっているのではないかと思います。教師の工夫次第では様々な学びへと移行できるのではと思い、少しベテランの先生用の教科書かとも感じたが、こちらを第2候補にさせていただきました。

教育長

では、私からも意見を言わせていただく。

まず、教科書採択全般にわたって重要視させていただいた点である。それぞれの委員からも発言があったが、やはり生徒たちにそれぞれの学習に当たっての目標や課題を示して、なぜ学ぶのか、何を学んでいくのかを明確にしていること、学んだことを基にさらに考えたり、ほかの人と話し合ったりできるような場面をたくさんつくっていること、それから、興味を持った分野にさらに生徒が自主的に深く学べるようになっていくこと、最後に、ICTを効果的に活用していること、これらを重要視して選ばせていただいた。

それでは、国語についてである。第1候補を光村図書、第2候補を三省堂としたい。

まず、光村図書は、巻頭の「思考の地図」によって、思考を広げ整理し、深めるための手法を示して、物事をより多くの面から見詰め、課題解決につなげたり、深く考えられるようにしている。

また、「学びへの扉」により、「見通しをもつ」、「とらえる」、「読み深める」、「考えをもつ」、「振り返る」、こういったことを通して、作品ごとの学習の目標と、目標に向けたアプローチの仕方を通して、計画的に学習を進めることができるようになっていくと思う。

比較や分類の仕方などを学ぶ「情報処理のレッスン」、意見の正しさや有効性を証明する根拠などについて学ぶ「思考のレッスン」、こういったページが非常に分かりやすく整理されていると感じた。

語彙ブックがそれぞれの学年の教科書についており、非常にコンパクトにまとまっていて、表現に迷ったりする場合、文字を書いたり発表したりする際に活用できるのではないかと思います。

第2候補の三省堂については、巻頭で9つの思考の方法の一覧を示して、生徒がいつでも、どのように考えていったらいいのかを振り返ることができるようにしている。

「学びの道しるべ」で、作品ごとに学習のポイントを焦点化して、生徒が見通しを持って学習を進められるようになっていく。

4社の中では最もデジタルコンテンツが豊富だったことから、第2候補として選ばせていただいたところである。

では、国語については、第1候補に推されている方が3名、そのほか2名の方についても第2候補に推されているため、光村図書にしたいと思うが、よろしいか。

委員一同

はい。

教育長

続いて、書写である。
仲山委員から願います。

仲山委員

手書きの文字は、文字が意味する内容以上の情報を含んでいるので、書き方の基礎といろいろな書き方を学ぶことで、より読み手に伝わる文字を書くことができるようになると思う。

学習指導要領によると、書写の目的は、文字の伝達性を重視する観点から、文字を正しく整えて速く書くことをできるようにすることとある。また、毛筆の学習は、硬筆による書写の能力の基礎を養うことを狙いとしている。

こういった観点から、第1候補に光村図書、第2候補に東京書籍を推薦する。

光村図書は、「学びのカギ」というところで学習のポイントを明示し、効果的・効率的に学習が進められるようになっている。それから、擬音を使った解説は、感覚的に力の入れ方などのイメージがしやすいと思う。

これらの特色というのは、東京書籍でも同様にあるが、光村図書は硬筆の練習が十分できるよう書写ブックがついている。また、行書で書こう、行書で味わおうというところがあって、有名な古典が取り上げられており、古典に親しむ態度の育成にもつながると思う。

こういった点から、光村図書を挙げた。

教育長

続いて、岡田委員、願います。

岡田委員

書写については、私は第1候補に光村図書、第2候補に教育出版を推薦したい。光村図書も教育出版も、毛筆に関しては、写真なども使って、とても見やすく分かりやすい教科書だった。

大きな違いというのが、今、仲山委員からのお話にもあったように、硬筆による書写の能力を培うところはかなり力を入れているように感じた。中学校学習指導要領の解説の国語編の中に、指導計画の作成と内容の取扱いがある。毛筆学習の目的の一つに、硬筆による書写の能力の基礎を養うよう指導することと書かれている。書写ブックの活用により、硬筆による書写の能力の基礎を養うことができる教科書が光村図書であると思った。

教育出版のほうも、先ほど申し上げたように、写真の活用、筆や墨、すずりや紙について知ろうというコーナーがあり、書写の奥深さを理解する上でとても興味深い工夫だったと思うが、全体的に光村図書のほうがよいと考えた。

教育長

ここでもうすぐ11時2分になる。冒頭に申し上げたとおり、1分間の黙祷をお願いする。

(黙 祷)

教育長

ご協力に感謝する。
それでは、続けさせていただく。
小林委員、お願いする。

小林委員

私は第1候補に光村図書を選んだ。光村図書は、擬音語などを使って解説されていて、感覚的に力の入れ方などをイメージしやすいと考える。

別冊の書写ブックで硬筆の練習ができるところも、子供たちの文字の習得の早道につながるのではないかと考え、第1候補を選んだ。

第2候補には、東京書籍を選んだ。「書写のかぎ」ということで、授業の狙いを絞り、ポイントを明確にしていることで、子供たちに伝わりやすい教科書だと感じた。

末巻の資料も豊富で、子供たちが探究心に沿って自分で見ることができる資料も豊富でいいと思った。

デジタル社会が進んでいる中で、義務教育中に文字を学ぶことが子供たちの人生の中で一番多いのではないと思う。この2社については、子供たちがより多く、字を正しく整えて速く書くということに特化していて、十分に教育に沿った内容ではないかと思った。

教育長

続いて、森山委員、お願いする。

森山委員

書写では、姿勢、筆の持ち方、筆遣いといった、文字を正しく美しく書くことができるという基本的な態度も含まれていると思うので、このような部分にも丁寧に気を遣って作成されている教科書を選定したいと考えた。また、自習しやすく、親しみやすく、負担感の少ない構成の教科書がいいのではないかと考えた。

第1候補に光村図書、第2候補に教育出版を推薦したいと思う。

光村図書に関しては、「書写のかぎ」で学習のポイントが明快に示されていた。

漫画の手書きのよさは、ペーパーレスになりつつある社会において、手書きの味わいなどを考えさせられるものだった。

トン・スー・トンという擬音が使われ、リズムカルな運筆の工夫があり、とても分かりやすいと思った。

別冊の書写ブックも、本来の教科書を見ながら練習できると思う。

自流になりがちな行書を丁寧にならせていると思う。

また、「考えよう」のページでは、手書きのよさについて話し合うページ、全国文字マップなども、身近な文字への興味を持つ機会になると思った。

第2候補の教育出版だが、学習を生かして書くということで、目的がはっきり定めてあった。ノートの手書き、レポートのまとめ方、学習活動、日常生活に生かして書くという目標があった。3年生の終わりには、その成果を生かすとして、手順がまとめられていた。

毛筆で学んだことを日常の硬筆に生かすことにポイントが置かれている。

巻末には、行書・楷書比較表や部首による検索ができる内容となっていた。

教育長

それでは、私も述べさせていただく。私は、第1候補を光村図書、第2候補を東京書籍としたい。

理由については、重複するので特に申し上げないが、光村図書は、内容に加えて、学習の進め方の中で、実際の教え合いの場面を示して、生徒同士の主体的・対話的な学びを積極的に促しているところも特徴的だった。

ここでまとめたいと思う。書写については第1候補が皆同じである光村図書を採択したいと思うが、よろしいか。

委員一同

はい。

教育長

続いて、社会の地理的分野である。

岡田委員から発言をお願いします。

岡田委員

地理の学習の目標は、社会的事象の地理的な見方や考え方を働かせて、課題を追求したり解決したりする活動を通して、公民としての資質・能力を育成することである。ここで述べられている社会的事象の地域的な見方や考え方の学習を通して養われる力とは、例えば、地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察する力、地理的な課題を把握して解決に向けて学習したことを基に、複数の立場や意見を踏まえて選択・判断できる力である。

また、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などは、社会的事象を地理的な課題として考察する際の大切な視点であると思う。

これらの視点をういながら、学習を進めていくかどうかを採択の判断基準とした。

第1候補に帝国書院を推薦したいと思う。第2候補はない。帝国書院の教科書は、冒頭部に巻頭の1、5、7、8、9、10というのがあるが、学び方、教科書や地図帳の活用の仕方、地理的な見方や考え方などが分かりやすく掲載されていて、とてもよいと思う。日本文教出版社も、この点に関してはとてもよいものを作っていたと

考えている。

各節のまとめの発問や課題設定がとてもよくできていて、地理の学習目標に沿ったまとめ方をしていると受け止めた。

また、区の地図なども掲載されており、子供たちのためにも、とても興味関心を引くものになっていると思う。

教育長

続いて、小林委員、お願いします。

小林委員

地理は帝国書院を選んだ。教科書として、区の写真が使われていることで、子供たちにより身近に学ぶことができるという点で選んだ。

地理の教科書には、日本の至るところに関する写真や文章がたくさん載っているが、やはり記憶には残りづらい教科かとも思っている。帝国書院は自分たちの住むまちを教材として扱っているため、子供たちの記憶に残りやすい。また、興味関心も湧きやすく、そこから探究心を持って、地理の分野に興味を持っていただけたらいいという意味も込めて、私は帝国書院一択とさせていただいた。

教育長

では、森山委員、お願いします。

森山委員

第1候補に帝国書院、第2候補に東京書籍を選んだ。

帝国書院に関しては、地理的分野の学習の全体像が示されていて、それが歴史、公民、他教科での学習との関連がよく分かると思う。

また、地理的な見方・考え方を組み合わせることで、学習がさらに深まるように作られている。

位置や分布では、先ほどもお話があるように、区の学校の写真や地域調査の仕方にも大泉地域が例として取り上げられ、親しみやすく授業に興味を持って取り組めると思った。

食料の大消費地を支える農業のページでは、近郊農業の発展が掲載されていた。都市農業についても、この練馬の話題に密接であると思う。

日本の気候から自然災害まで関連づけてあり、「自然災害から命を守ろう」のページも非常に興味深いものだった。

単元や、毎時の学びが明確に示されている。

キャラクターの一言が思考を深めることにもつながった。

「学習を振り返ろう」では、地図帳の活用や重要語句もまとめられている。

2次元コードでは、教科書の内容とリンクした学習内容となっており、ワークシートも充実していた。

地理的な見方・考え方が巻頭に示されていて、アニメ的な雰囲気や優しい感じがす

と思う。

東京書籍だが、「学習をまとめよう」では、探究課題、探究のステップ、みんなでチャレンジ、個人活動、グループ活動の流れがあって、とても分かりやすいものだと思う。

さらに探究課題を解決するステップは、キャラクターのヒントもあり、知識を深めることができると思った。

巻末には索引、用語の解説が掲載されており、学習した言葉の意味を調べることができると思う。

教育長

では、仲山委員、願います。

仲山委員

注目したことは、地理を学ぶ意味が明快に書かれているか、各項目の本論に入る前に、その時間の学習テーマを生徒が興味を引くように提示しているか、それから、各論の説明が単なる事象や情報の羅列にならないような、納得できる記述になっているかという点で調べた。

その結果、第1候補に帝国書院を、第2候補に日本文教出版と教育出版を推薦する。

帝国書院は、総合的に優れていると感じた。また、学習の振り返りで、生徒に考えさせる内容と提示の仕方が適切であると感じた。先ほどから意見が出ているように、練馬区が取り上げられている点も、区で使うには好都合であると思う。

それから、日本文教出版の巻頭における地理的な見方・考え方は非常に分かりやすいと思う。また、自然環境と人との関わりを題名に明記している点がよいと思う。

教育出版は、領土問題に関して、平和的な解決を目指すことの重要性に言及している点がよいと思う。

教育長

では、私の意見を述べさせていただく。私は、第1候補を帝国書院、第2候補を東京書籍としたい。

第1候補の帝国書院は、各章の初めに、学習内容に関連する大きな写真、それから地図を掲載していて、生徒の興味関心を引き出す工夫がされていると思った。

また、本文では、重要な用語の下に関連するページや解説が記されていたり、地図帳の活用を促したりするなど、1時間の学習の中で様々な資料を活用することができると思った。

さらに、SDGsに関連する様々な特設ページやコラムが掲載されていて、生徒は地理の学習を通じて環境問題の意識を高めることが期待できるのではと思った。

それから、デジタルコンテンツでは、裏表紙に2次元コードが掲載されていて、いつでも使いやすい工夫がされているとともに、コンテンツの表示方法や学習内容ごとに区分けをされている特徴があったと思う。

先ほどからお話があったが、地域調査の仕方の部分、12ページにもわたって練馬

区が取り上げられているのは非常に大きいと思った。

第2候補の東京書籍については、単元の初めに探究課題が示されていて、生徒は地理の学習を通して何を学ぶのかが明確になっていた。

それから、各ページには、様々なグラフ、地図、写真に加えて、地域で暮らす地元住民の声が記載されていて、生徒が地理の学習を身近に感じることができるように工夫されていると思った。

ということで、地理的分野については、第1候補が皆同じである帝国書院を採択したいと思うがよろしいか。

委員一同

はい。

教育長

続いて、社会の歴史的分野をお願いします。

では、小林委員、お願いします。

小林委員

私は、第1候補に東京書籍を選んだ。1単位時間ごとの学習課題を、問いを軸にして、課題解決的な学習の流れとしているところが、子供たちに伝わりやすいのではないかと考えた。

時代区分のスケールが右ページの端に示されていることで、辞書のように時代検索ツールとしても使えるのではないかと考えて、こちらを第1候補とさせていただいた。

第2候補には、教育出版を選んだ。毎時間のタイトルが、学習内容を表しつつ、生徒の興味関心を引く工夫があると感じた。

見開きページ冒頭に時代区分のスケールを示していることで、時代を意識しながら学習に入れるのではないかと思います、第2候補に選んだ。

教育長

では、森山委員、お願いします。

森山委員

歴史を学ぶことで、生徒たちは現在、未来を考える上で貴重な引き出しを持つことができると思う。社会学習の特質である課題を追求したり、解決できる学習スタイルを適切に行うこと、読みやすいこと、そして、歴史学習を通じて多様な思考力や判断力、表現力を身につけることのできる教科書がよいと考える。

第1候補に東京書籍、第2候補に帝国書院を選んだ。

東京書籍は、見開き1ページで1回の授業分となるよう構成されていて、とても分かりやすいと思った。学習課題として、見開きの初めに示している問いについて、自分たちで話し合い、解決という流れになっている。問いの連続だが、非常に課題を意識しやすい、自分たちが何を学んでいるのかということがいつも明快に分かる点がいい

いと思った。

また、時代区分のインデックスが右側の端に示されていて、学んでいる歴史における今の位置や流れということが分かりやすいと思う。

考察においては、比較、相互の関連、現在とのつながり、調べた内容が現在の私たちの生活とどのように違うか、または同じなのかということを考えさせられ、歴史の積み重ねを知ることができると思う。

第2候補の帝国書院だが、章の導入で単元を貫く問いがこちらでも設定されていて、単元の見通しを立てられるようになっている。

また、節の導入でのタイムトラベル絵巻で時代をイメージできる。

対話学習での時代の見通しを持とうというテーマがあり、グループで考えを深められると思う。

時代や年代を結びつけ、縦型の年表が、ページの色分けされたインデックスがあり、どの時代を学んでいるか工夫があった。

今日も長崎の原爆の日だが、印象に深いのは、ある広島の子どもの日記が掲載され、同じ年頃の子どもと現代の自分たちが重なり、歴史を通して平和の大切さを考えさせるものであると思った。

教育長

では、仲山委員、願います。

仲山委員

歴史は、多大な犠牲を伴った貴重な実証実験の記録とも言えるので、これからの平和な社会をつくるときの道しるべやかがみとして役立ててもらいたいと思う。そのために、知識の獲得だけにならないように、また、歴史的事象には多様な見方や意見があることも知ってもらいたいと思う。

学習指導要領では、歴史学習の学び方として、社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせること、すなわち事象同士を因果関係などで関連づけることを基本に据えている。また、複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したりする力を養うことを目指している。

このようなことを踏まえて、第1候補に東京書籍、第2候補に帝国書院を推薦する。

事象の羅列になりやすい歴史の勉強においては、いかに興味関心を起こさせ、勉強に引き込むかは非常に重要だと思う。この点に関しては、各社工夫しているが、東京書籍のデジタルコンテンツが優れていると思う。

また、本文の内容のページが少なく、かつ、生徒に対する発問の数も少ないので、的を絞って深く勉強するには適切であると思われる。

帝国書院のタイムトラベルという大きな図版を使ったイラストは、興味関心を喚起させるとともに、学習する時代をイメージさせるのに優れていると思う。

教育長

では、岡田委員、願います。

岡田委員

第1候補に東京書籍、第2候補に教育出版を推薦したいと思う。

まず、歴史の学習に関する私の考え方を述べたいと思うが、生徒の多くは、歴史を暗記科目だと受け止めているのではないかと考えている。しかし、歴史的分野の学習の中心は、我が国の歴史の大きな流れの理解であって、各時代の特色は、そのために踏まえるべき事柄だと思う。我が国の歴史と関連する世界の歴史を背景に、政治の展開、産業の発達、社会の様子、文化の特色など、他の時代との共通点や相違点に着目して、各時代の特色を明らかにした上で、我が国の歴史を大きく捉えることができるようにすることが学習の中心だと考えている。

また、歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色など、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し、複数の立場や意見を踏まえて、公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養うことにある。

特に多面的・多角的に考察する力については、資料を適切に収集、選択、活用して、資料に基づいて考察、構想することがとても大切だと思う。このことが、歴史における課題について、公正に選択・判断したり、説明や議論したりする力を養う基本となるものだと私は考えている。このことを踏まえて、教科書の検討を行った。

東京書籍の教科書では、章のまとめの活動が他社に比べて多様で、多角的な視点から学習活動を展開できるように工夫されていた。この多様な視点から学習活動ができるというのが、歴史においてはとても大切なだろうと思う。

章を一貫して貫いている問いと、それを支える各節ごとの学習の見通しが一目で分かるように記述されている点もとてもよいと思う。

この点は教育出版も同じなのだが、東京書籍のよい点は、学習項目だけではなく、章を貫く問いと連動して節の学習を貫く問いが書かれており、生徒が探究的な学習を進める上でとても参考になるものだと考えている。

教育出版は、章を貫く問いと、それを支える各節ごとの学習の見通しが学習項目で書かれており、これも一目で分かる点はとてもよいと思うが、総合的に見て、東京書籍を第1候補に推薦した。

教育長

最後に私から述べさせていただく。私は、教育出版を第1候補に、東京書籍を第2候補にしたい。

まず、第1候補の教育出版は、第1章で歴史学習の進め方を非常に丁寧に取り扱っている。歴史学習における見方・考え方はどういうものか、他教科での歴史的観点での活用の仕方、地域調査の進め方など、ここは他社に比べて第1章に多くのページを割いていると思った。

次に、教育出版は、単元の導入で単元を貫く問いを設定し、節ごとの問い、それから、1時間ごとの学習課題を明確に示している。生徒が課題意識を持って解決するという課題解決的な学習展開になっている。これは、歴史の学習を進める上で非常に重

要な視点ではないかと思っている。

多くの出版会社が同様の学習展開を示しているが、私は教育出版の資料の扱いや、問いの言葉遣いが優れていると感じた。

それから、各ページの右下の部分に「確認」と「表現」というものを提示して、毎時間の学びを振り返ることができるようにしている点も評価した。

第2候補の東京書籍であるが、こちらも単元を貫く課題と節ごとの課題、1時間ごとの学習課題など、問いを軸にした課題解決的な学習展開となっているところ、それから、これはほかの委員の方からもあったが、時代区分のインデックスがカラスケールの状態で右ページ端に毎ページ示されているところも非常によかったと思っている。

それから、単元の学習のまとめについて、多くの思考ツールを例示して、生徒が学習したことをまとめやすくしている点も評価したところである。

ということで、私を除いて皆さん東京書籍だが、私も第2候補に推しているため、歴史的分野については東京書籍を採択させていただきたいがよろしいか。

委員一同

はい。

教育長

続いて、社会の公民的分野である。

森山委員から願います。

森山委員

社会の公民的分野は、小学校での学びを基礎として、日本の文化の特質や現代社会の状況、政治をはじめとする統治機構の概要、経済活動、国際関係という学びを行う教科だと思う。しかしながら、取り扱う内容があまり高度で抽象的なものだと、生徒の興味関心が低くなると思われるので、生徒にとって分かりやすい記述や興味関心を促す資料の掲載、現代社会とのつながりの視点が分かりやすく示されている教科書がよいのではないかと考えた。

第1候補に東京書籍、第2候補に教育出版を推薦する。

東京書籍では、まず、「公民の学習の初めに」という部分に、これから学ぶ6章のテーマというのがあった。各章の初めに「導入の活動」、「みんなでチャレンジ」、課題を探究する、そして解決するという流れがあった。

「みんなでチャレンジ」では、生徒が現代における様々な事象の意味や、それを多面的に考察し、他者に説明し、討論をするというように工夫されていた。

「深めよう」では、考察の仕方が示されていて、それを言語化、文章化する力をつけるように工夫されていた。

終章の「よりよい社会を目指して」では、学習した内容を課題把握、課題探究、意思決定、提案参加の4ステップにまとめて、さらにアクションプランへまとめる作業があった。

公民の学習を通じて、これからの学習に生かすというつながりがあるように思った。

まず、「18歳へのステップ」では、選挙権年齢や成年年齢の引下げを受けて、18歳に向けて準備するページがあり、学校で学ぶ機会があるのは大変よいと思った。

第2候補の教育出版については、表紙に「公民 ともに生きる」と記されていた。持続可能な未来を築くためには、共通する物の見方、考え方、感じ方があることに気づく。それは、つながり、関係への気づきだと書かれていた。個人と社会のつながりに注目してみようと思った。これまで身の回りの出来事から、地域、社会、地理、歴史を活用し、持続可能な未来の在り方を自分なりに考えて、それをさらに深めていこうとなっていた。

公民で学ぶ主な内容と学習の見通し、学びのノート作りなど、細かに説明があった。世界に1冊しかないノートを作ろうと、励ましていた。

公民で学ぶテーマは、全ての事柄であり、生きた知識や情報を学び得ることで、生きる意味を捉え、希望を抱き、自分なりの判断力を身につけ、自分や地域の持続可能な未来を想像または創造できるように、共に学んでいこうと書かれていた。

教育長

では、仲山委員、お願いします。

仲山委員

公民的分野の学習においては、適切な課題を設定し、その課題の追求のための考慮すべき多様な視点に着目させた上で、課題に取り組むことが重要であるとされている。

この点を重視して、第1候補に東京書籍、第2候補に帝国書院を推薦する。

東京書籍は、各章の導入部分の活動を通して、章を貫く探究課題へうまく導き、各節で課題を追求し、まとめとして課題を解決する活動の流れがうまく工夫されている。また、地球環境問題に関する内容が充実している。

それから、公民の学習の意味と目的が分かりやすく示されている。ただし、ここはもう少し目立つように示したほうがよいと思った。

帝国書院のイラストを使った導入は、興味関心を抱かせる工夫としてよいと思った。

また、公民を学ぶ意味も生徒にしっかりと読んでもらいたい内容になっている。

教育長

では、岡田委員、お願いします。

岡田委員

私は、第1候補に東京書籍、第2候補に教育出版を推薦する。

歴史は、過去の事象を多面的・多角的に見詰めて考えていくという学習だが、公民については、現在の社会事象から課題を見つけて、子供たちが話し合う活動、それを通して社会事象の中の問題を解決していこうという学習が大切かと思う。

もう少し具体的に申し上げたいと思うが、公民の学習では適切な課題を設定して解決するための多様な視点に着目させて、課題追求や解決を図る活動が展開されるよう、

学習を設計することが不可欠だと思う。

また、公民的分野の学習を通じて育成される資質・能力として、個人の尊厳と人権尊重の意義の認識が必要で、その認識のためには、自由・権利と責任・義務との関係を広い視野から正しく認識する必要があると思う。

このように、公民の学習では、まさに個人の生き方を考える際のとても大切な視点を子供たちが身につける機会となるものである。

したがって、公民の授業では、適切な課題を設定して解決するための、これらの多様な視点に着目させて、課題追求や解決を図る活動が展開されるよう、先生方が学習を設計していくことが不可欠で、とりわけ社会的事象を政治や法、経済などに関わるような視点に着目して、よりよい社会の構築に向けて課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関係づけることが極めて大切だと思う。

一言で言えば、現在の課題を子供たちが見つけて解決するという、その授業設計をするための教科書になるが、そのような活動にふさわしいのが東京書籍だろうと思った。

具体的には、主体的・対話的で深い学びにつながる「みんなでチャレンジ」というコーナーが随所にあり、これが子供たちの対話を導く上で、すごくいいと感じた。

教育出版においても、「公民の技」というコーナーがあり、これもとてもよかったが、全体の取上げ方から見て、東京書籍を第1候補に推薦した。

教育長

では、小林委員、願います。

小林委員

私は第1候補に東京書籍を選んだ。東京書籍の「18歳へのステップ」というところで、義務教育が終わって、早速3年後に成人を迎えるこの日本で、とても重要な項目だと思い、東京書籍を第1候補にした。

第2候補には、教育出版を選んだ。小学校との学習と関連づけていることで、今までの学びと結びつけて、子供たちの興味関心を引きやすいのではないかと思い、第2候補に教育出版を選んだ。

公民の教科書には、日本の国民である上でとても重要な内容が記されているが、恐らく子供たちが一番興味関心の少ない分野ではないかというところで、内容が充実しているものか、完結しているものか、すごく悩んだ。悩んだ上で、同年代の子供を持つ保護者に軽く質問した。学生が終わった後、子供たちの持ち物で何を残すか聞いたときに、一番多かったのが、小学校5年生で買った家庭科の裁縫道具という意見だった。充実した内容、豊富な内容、資料というところで、公民の教科書が、学生が終わった後でもご家庭に残しておくベスト3に入ったらいいという期待値も含めて、この2社はとても内容が豊富だったため、選ばせていただいた。

教育長

では、私から。私は、第1候補を東京書籍、第2候補を教育出版としたい。

東京書籍は、各章の初めに少人数での体験的な活動を取り入れて、章を通して明らかにしていく問いを探究課題として設定している。探究課題を設定することで、生徒が見通しを持って主体的に学習に取り組めるといった。

それから、まとめの活動として、「確かめよう」、「ふり返ろう」、「深めよう」といったものが設けられていて、各章で習得した知識・内容を整理して、活用して、考えたり表現したりすることができるようになっている。

第2候補の教育出版は、各章の初めで、こちらでも学習の見通しを示して、章全体で追求するテーマと、見方・考え方を具体的に示している。特に見方・考え方については、各章でどの見方・考え方を学ぶかについて明確に示しているところが特徴的かと思った。

それから、「学習のまとめと表現」として、前半では節の振り返り、後半では思考ツールを使って、自分の言葉でまとめるような学習が展開できるようになっている。

以上のことから、第2候補に教育出版とした。

まとめると、全ての委員が第1候補として東京書籍を挙げているので、公民的分野については、東京書籍を採択させていただくが、よろしいか。

委員一同

はい。

教育長

続いて、地図である。

仲山委員からお願いします。

仲山委員

地図に関しては、2社の中から帝国書院を推薦する。帝国書院は、地図、統計資料ともに見やすく、情報量も適切であると思う。イラストによる鳥瞰図は、地形の特徴が非常に分かりやすくなっている。

それから、気候や防災に関する資料も充実しているため、帝国書院を推薦する。

教育長

岡田委員、お願いします。

岡田委員

私も帝国書院を第1候補に推薦する。アジア州の学習で質問があって、「地図で発見!」、アジア州の大州界、こういう学習の中で、ウラル山脈、アデン湾、ペーリング海峡などを探そうという課題設定があった。この地図を見ただけで、私も同じような疑問が湧いてきて、このような問いかけはとてもいいと思った。

これが地図の各所に表れていて、楽しみながら地図を見ることができるし、また、二次元コードで地図を逆さにして見ることができる。いわゆる子供の思考の中で地図を見る一つのパターンというのがあるわけだが、それが逆方向から見るとどうなるの

かということも二次元コードで見たりして、これもとてもいいのではないかと思った。
以上が推薦理由である。

教育長

小林委員、お願いします。

小林委員

私は、帝国書院を選んだ。情報量も多く、統計資料が見やすいというのが一番のポイントである。

最近テレビでもよく取り上げられている世界遺産に対しても関連づける内容があるので、子供たちは見聞きしている情報を学校でも学ぶと、興味関心が湧きやすいのではないかと思って、帝国書院を選んだ。

「地図で発見！」というコーナーが各ページにあるところも、毎時間繰り返すことで子供たちに意識づけしやすいのではないかと思い、私は帝国書院一択とさせていただいた。

教育長

森山委員、お願いします。

森山委員

私も帝国書院を選んだ。全体的に色調が明るく、見やすいと思う。凡例の地図記号が分かりやすく、地図帳の使い方など、丁寧な説明があった。

持続可能な社会では、地図帳を通してSDGsを考える資料がたくさん掲載されていた。

世界の文化、生活、人々の住居、衣装、食事にはどのような特徴があるか、大変興味深い図や写真も多く、生徒間の話し合いなどで活動がしやすいと思われた。

そして、教科書自体、多少軽いように思った。

鳥瞰図には、山脈や高原などが立体的に描かれて、その地域の代表的なスポーツや民族衣装、工業などがイラストで入っていて、とてもなじみやすいと思った。

地図帳は、地理的分野のみならず、歴史的分野や公民的分野の学習、さらにほかの教科においても活用できる貴重な情報が掲載されていて、大人になっても長く使用できる資料であると思う。

教育長

では、私から。私は第1候補のみだが、帝国書院とさせていただく。皆さんからいろいろお話があったが、私はヨーロッパ州の全体を示す一般図の横に4つの年代ごとに国境が変化している地形図が掲載されていて、様々な時代で国境が変わっていく様子を示すとともに、地理だけでなく、歴史、公民との関連を図りながら学習などを進めていくことができるようになっていていると思った。

SDGsに関連して、日本の自然災害・防災の学習では、4ページにわたって地震

や火山の分布、台風や線状降水帯等の気象災害について丁寧に説明をしている。

それから、世界の統計のページでは、世界各国の特徴について見やすく整理されている。デジタルコンテンツも、裏表紙に2次元コードが記載されていて、いつでも使いやすい工夫がされているということが理由である。

以上、地図については帝国書院を採択させていただくがよろしいか。

委員一同

はい。

教育長

続いて、数学である。

では、岡田委員からご発言をお願いします。

岡田委員

数学については、第1候補に東京書籍、第2候補に啓林館を推薦したいと思う。

東京書籍の教科書なのだが、1年生の教科書で0章というページがあって、小学校の算数とのつながりを大切にしていた。

2つ目に学習内容の系統性についてだが、東京書籍は多角形の学習から平行線の学習に移っている。冒頭に私が申し上げた学ぶ意義を考えると、多角形から平行線の学習に移ることは、この学ぶ意義を感じる上でとても自然な流れだと思う。

3年生の平方根の学習後に因数分解の学習がある。これも生徒の思考を考えると、最もこの流れがふさわしいのではないかと思う。

また、教科書協議会で今回の改訂の特徴として挙げられた2次元コードの充実に関して、東京書籍では動画が73点あるということであった。中でも3年生の教科書の三平方の定理の学習で使用する動画で、富士山がどれぐらい遠くから見えるかという課題があり、その中で富士見台という地名がついている場所の紹介、これが全国で富士見台という名前がどのくらいあるかという紹介だが、その中で区の富士見台小とか、中村橋駅にある私立の富士見中学校高等学校が地図に出ていて、そこから富士山までの距離をどう測るかという課題があった。区民としては、また、区の子供たちにとっては、このようなことがとても興味深いのではないかと思う。

最後に、「MATH CONNECT」という、数学が身近にあって、日常生活や社会とのつながりを感じることができるような、過去の学習内容を多様な見方をしながら振り返っている点がとてもよいと思う。

啓林館についても、QRコンテンツは充実していて、図形やグラフを動かしながら試行錯誤できる工夫はとてもよいと思ったし、また、先ほど申し上げたCBT形式で問題を解けるという点も高く評価したいが、全体として東京書籍がよいと考え、第1候補に推薦した。

教育長

小林委員、お願いします。

小林委員

数学では、私は第1候補に数研出版を選んだ。とてもすっきりした内容になっていて、簡潔にまとめられているため、授業として進めやすいのではないかと考えた。

第2候補には、東京書籍を選んだ。先ほどもお話があったように、統計を重視した内容ということに関しては、私が第1候補に選んだ数研出版とは真逆の教科書になってしまうところもあるが、保護者向けのメッセージが末巻にあったり、数学をどのよう日常生活と結びつけるという学びがあったり、数学が苦手な子供にも一つのいいきっかけになる教科書ではないかと思い、この2つを選んだ。

教育長

では、森山委員、願います。

森山委員

小学校に比べて、格段に難しい内容が盛り込まれている教科という意識があると思う。また、どのような形で数学という教科に出会うかによっても、その後の学習が大きく変わってしまうのではないかと思う。先生が教えやすく、生徒が自学自習を行っていく上でも、例題、解説、練習問題などの記述内容等が丁寧で分かりやすいものであることが大切だと思った。

また、生徒同士の教え合いや学び合いという場面が多く、対話や教え合い、そういう学習スタイルの教科書がいいのではないかと思った。

第1候補に推薦するのは東京書籍、第2候補は教育出版である。

東京書籍においては、新1年生では、算数から数学へと小学校で学んだことのつながり、2、3年生では前の学年で習ったことの積み重ねが示されているため、再度振り返りすることができるのではないかと思った。

また、大切にしたい数学の学び方も、様々な問題をまずは自分で考え、ほかの人と考えを伝え合って解決すること、その中で数学や考えを学び、ほかの場面でもそれらを使えるようにすることの確認があった。

先ほどもあった「MATH CONNECT」で様々な身の回り、社会、算数・数学同士といったつながり、ICTでつながる、数学の目で振り返ろうと呼びかけていた。

デジタルコンテンツでは、授業に使えるシミュレーションや動画など多彩で、自学自習でも活用できるように工夫されていると思った。

一方で、教育出版は、これから学ぶ数式など、まず身近な題材から問題を見だし、問題をつかみ、解決する、さらには自分で考えてみようや、友達の考えを知ろうなど、発展して学びのプロセスを展開していた。

数学は生活に役立つのかと考えがちだが、実際にいろいろな問題を見だし、何げなく生活していたなら疑問に持たない事柄が勉強につながっていると思える。

章の学習のまとめもカラーページで表されていて、学習の感想をまとめるまで一貫していた。

教育長

仲山委員、お願いします。

仲山委員

数学の学習指導要領では、基礎的な概念や法則の理解、物事を数学的に考える力、粘り強く考える態度の育成を目指しているが、現実には、小学校高学年あたりの算数からついていけなくなった大学生が珍しくない状況になっている。数学の場合、下位学年からの積み重ねができていないと、その先の学習ができないので、次の段階の学習に必要な概念や計算手法は最低限身につけてもらいたいと思う。

その観点から、数学が苦手な生徒にとってよいと思われる教科書を選んだ。どの教科書も丁寧に作られていて、前に習ったことの振り返りや勉強の仕方などがあり、どれを使ってもよいとは思いますが、その中で、第1候補に東京書籍、第2候補に啓林館を推薦する。

東京書籍は、必ず解けるようになりたい問題が明示してある。しかも、数が多くないのもよいと思った。

また、2次方程式の解法が、平方根の考えを使った汎用性のある解き方から解の公式に入り、その後、因数分解ができる場合の解法について勉強する順番が、無理がなくよいと思った。

また、放物線と直線の交点に関する定番の問題も丁寧に説明されている。

啓林館も、2次方程式の解き方の説明は同様の順番になっている。また、キャラクターの発言内容が、数学が苦手な学生の助けになる内容になっていると思った。

教育長

では、私から。私は、第1候補を東京書籍、第2候補を数研出版としたい。

東京書籍は、単元の導入で日常の事象を取り扱っていることが多く、生徒の主体的に学ぶ意欲を高めていると思った。

「深い学びのページ」では、問題をつかむ、見通しを立てる、問題を解決する、振り返る、深める、これらの過程に沿って学習に取り組めるようにしていることが特徴かと思った。

「学びをふり返ろう」というものを設定して、過去の学習で働かせた数学的な見方・考え方を振り返る場面があるのもよかったと思う。

それから、デジタルコンテンツが他の教科書と比較して圧倒的に多い。これによって生徒が自学自習に取り組めるのではないかと思った。

2つ目の数研出版だが、全体的にシンプルな作りであるものの、キャラクターの対話を手がかりにして学習を進めることができ、私の所感では、数学を苦手とする生徒にも、ある程度見通しを持って課題解決を図れたり、数学的な見方・考え方を働かせるきっかけになったり、工夫されていると思った。

それから、「学んだことを活用しよう」では、身につけた知識・技能を活用して身近な問題を数学的に解決することで、深い学びにつなげようとしている工夫が見られたのも評価の基準である。

それでは、数学についてだが、ほとんどの方が第1候補、または第2候補に推しているため、東京書籍を採択させていただくが、よろしいか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、続いて、理科である。

小林委員、お願いする。

小林委員

第1候補に私は東京書籍を選んだ。初めのページで、探究の流れと教科書の使い方が漫画で記載されていることがあり、全ての生徒が必ず目を通すきっかけになるのではと思い、東京書籍を選んだ。

東京書籍は、他社に比べて二次元コードが特別に多い、少ないということもなく、十分充実した内容で記載されていると思った。

次に、私は学校図書を第2候補に選んだ。デジタルコンテンツの内容が、他社よりも少し面白みがあるというところで、学校図書を選んだ。理科なので、実験等に関する注意喚起が明確に記載されているところもポイントだと思った。

また、デジタルコンテンツが6か国語対応という点だが、現在中学校でも多国籍の生徒または外国人の保護者がとても多く、保護者同士の対話でも、先生が一回英訳してからというのも学校の中では聞く。おうちに教科書を持って帰ったときに、家族の皆様も見られる教科書なのではと思って、第2候補に学校図書を選んだ。

教育長

続いて、森山委員、お願いする。

森山委員

私は、理科は第1候補に東京書籍、第2候補に教育出版を選んだ。

東京書籍は、1年生の教科書ではまず表紙から、「なんでこうなってるの？」という疑問を投げかけていた。ふだん何げなく見ている現象などから気づけることはたくさんあると示唆していた。

調査研究に当たって、生徒が自分の考えで仮説を立て、実験する流れが丁寧に説明されていた。小学校での学びとリンクさせていた。

また、「社会につながる科学」というページでは、様々な分野の方のインタビューが掲載され、生徒の興味関心、また、実社会へのつながりを知ることができると思う。

そして、色覚問題研究グループによる色彩デザインに関する編集協力があつた。

教育出版については、まず、自然を探究する方法を学ぶとあつた。探究の進め方では、非常に丁寧にページが割かれており、観察、実験、事故防止のための理科室の決まりと応急処置も分かりやすくまとめられていた。

単元の初めには、学んでいくことの章の目安のページがあって、小学校での学びを基礎として連続性を意識できるようになっている。

観察や実験結果を記入する枠もあった。

教育長

続いて、仲山委員、願います。

仲山委員

現在、様々な環境問題に直面する中、また、科学技術が急速に進歩する中を生きていく子供たちにとって、自然の事物、現象について理解を深め、適切な行動や科学的に探究したりする力をつけることは必要不可欠である。

学習指導要領では、観察、実験を中心とした探究の過程を重視し、理科の面白さを感じたり、理科の有用性を認識したりすることにつながっていくことを求めている。

しかし、一方で、理科に対する関心や意欲の低下が問題になっており、その主な原因として、理科が分からない、理科の授業で学習したことをふだんの生活と関連づけられないとの調査結果がある。分かりづらい部分としては、物理と化学の分野が挙げられている。中学の物理と化学分野で習う根本原理はそれほど多くないが、初めて学習する生徒にとっては、教科書のどこの部分も重要に見え、ポイントをつかみづらいのではないと思われる。

これらのことを踏まえ、分かりやすさに注目して選択した。その結果、第1候補に学校図書を、第2候補に東京書籍を推薦する。

学校図書は、基本操作や資料を、40ページにわたってまとめている。その結果、本筋を読み取りやすくなっている。

学習する項目ごとに考え方やまとめが書いてあるが、ページの最下段と隅のほうに目立たないように書いてあるので、本論に集中しやすいと思う。

文章の書き方、読み方に関する説明や、結果と考察の違いに関する説明も分かりやすく、考察をどう書いてよいか分からない生徒にとっては役立つと思う。

また、原子・分子の粒子モデルが積極的に使われており、様々な自然現象を考える際のミクロな視点を養うのによいと思う。

安全に関しては、本論と資料ページの両方に記載がある。一方で、身の回りとの関連に関する内容は、あまり多くない。

東京書籍は、生徒の興味関心を引き出す様々な工夫がされている。また、学習したことと身の回りのものとの関連も説明している。

ただ、情報量が多い分、重要な部分がどこか分かりづらいのではと感じている。

それから、デジタルコンテンツも東京書籍は充実している。

教育長

では、岡田委員、願います。

岡田委員

私は、東京書籍のみを推薦したいと思う。東京書籍の教科書だが、生徒の負担に配慮した軽量の紙質になっていると最初に感じた。そのほかにも、2次元コードによる学習支援が圧倒的によかったという印象である。

それから、1年生の教科書の冒頭で「理科室の決まり」というのがあって、これは中学校で観察や実験を行う際に特に気をつけなければいけない約束事だが、先生が子供たちの発想を取り入れて自由に探究活動をさせていく授業をやるときには、この約束事はとても大切なものであると思うし、これが1年の冒頭で出てきたのは、すごくいいと思う。

それから、2年生と3年生の教科書の冒頭で継続観察をしようというのがある。例えば、2年生では雲の継続観察、3年生では星座の年周運動を自分で継続観察する。年間を通して子供たちが観察をして、規則性を自分で見つけたり、学習を身近に感じさせたりする工夫があり、とても大切なことだと思う。

それから、生徒がとてもつまずきやすい光と音の学習について、各社の特色を調べたが、東京書籍ではシミュレーションの二次元コードがあって、例えば、物体をレンズで大きく見ようという学習のときに、物体をレンズの焦点距離から遠ざけたり、焦点距離内に置いたりして、像の見方がどう違うか、試行錯誤しながら確認できるという学習になっている。理科では試行錯誤がいかにできるかという機会や時間を生徒に与えることもとても大切だと思う。これが強く配慮されていると思ったので、東京書籍を推薦する。

教育長

では、私から。私は、第1候補を東京書籍、第2候補を学校図書としたい。

東京書籍は、巻頭や巻末に身近な自然現象から考えさせるような場面を設けている。それから、章の冒頭の単元扉、章扉で、これから学習する内容に関連したスタート動画を用意している。これらによって、生徒の学習の動機づけを促すようにしている。写真、イラストなどを有効に活用して、探究の流れが見やすく、授業の見通しが立てやすい構成になっていると思った。

それから、授業1時間の内容が見開き1ページで構成されていて、一見して学習の内容のまとまりが分かるようになっている。

学校図書については、章の冒頭で、これから学習する内容に関連した写真を掲載していること、それから、SDGsのどの項目に該当するかを示すことで、今日的な課題についても考えるきっかけを与えているというのが特徴的かと思った。

また、デジタルコンテンツが6か国語対応ということで、こちらも評価したところである。

では、理科については、ほとんどの方が第1候補または第2候補に推薦をされている東京書籍を採択させていただきたいが、よろしいか。

委員一同

はい。

教育長

では、12時を回ったため、ここで休憩とさせていただき、午後1時に音楽の一般から再開をさせていただきたいと思う。

(休 憩)

教育長

では、引き続き教科書採択の審議を進めさせていただきたく。

音楽の一般である。

森山委員から願います。

森山委員

音楽は、教育芸術社を推選する。音楽によって生活が明るく豊かなものにしようとのテーマが各冊に示されていた。

また、「音楽って何だろう？」と、様々な分野の方のメッセージがあった。

音楽は様々な人の生活に溶け込み、その人個人の楽しみを超えて、合奏など、多くの人と楽しむことができると思う。

また、一方では、著作権などのルールについても丁寧な説明があった。

1年生の最後の部分には、生活や社会の中の音や音楽というページがあり、お寺の梵鐘の写真など、生活に溶け込んだ音を紹介していた。

学校内外での気になる音を探し、耳を傾けるということも、音を楽しむ始まりに気づかされる内容であったと思う。

教育長

続いて、仲山委員、願います。

仲山委員

音楽の学習では、音楽表現の機能を身につけること、音楽を味わって聴くことができるようにするだけでなく、音楽活動の楽しさを体験し、感性を豊かにし、豊かな情操を培うことも目標になっている。

また、音楽は、人の心の内面に働きかける力を持っているので、いろいろな音楽に触れて、それを体験してもらいたいと思う。

2社とも、これらの目標に沿った内容だが、教育芸術社を推薦する。教育芸術社は、デジタルコンテンツが充実している。それから、歌い方や鑑賞のポイントが分かりやすく示されている。また、指揮のポイントも分かりやすいと思った。

教育長

続いて、岡田委員、願います。

岡田委員

私は、第1候補に教育芸術社、第2候補に教育出版社を推薦する。

教育芸術社では、「敦盛」の学習で、読んでいて知りたいと思う内容が書かれていて、生徒の興味関心に応じたものになっていると思った。

また、「敦盛」の絵譜があり、これを二次元コードから実際に聴くことができるようになっている点は、とてもすばらしい工夫だと思う。

また、楽譜のあるページには、カラピアノが聴ける二次元コードがついていて、生徒がいつでもこの曲を聴けるようになっている点はとてもすばらしく、教育出版社と比べて、ここはとてもよい点かと思う。

また、2年、3年の教科書の創作の学習で、コンテンツを利用して容易に作曲して自分の曲を聴くことができるという点がとてもすばらしいと思う。

教育長

では、小林委員、願います。

小林委員

教育芸術社を推薦させていただく。学年に応じて息の使い方や発声、発音の仕方等を掲載しているところが、何げなくできている生徒にも、できない生徒にも、分かりやすく音楽を身につけられるのではないかとこのところ、教育芸術社を推薦させていただいた。

変声期についての工夫も掲載されているので、中学生の現状に合った教育が掲載されていると感じた。

何より創作ツールとして、中学生がとても簡単に音楽を作れて、実際自分が作った曲を聴けるのが楽しそうというポイントが大きかった。

教育長

では、私から。教育芸術社のみとしたいと思う。教育芸術社は、歌唱教材と鑑賞教材の冒頭に色の網かけで作品の特徴を紹介している。学習の狙い、それから、学習の中で思考を促すポイントを明示していて、生徒が見通しを持って学習を進めることができるようになっている。

また、音楽科の学習において、音や音楽を捉える視点として大切な音楽を形づくっている要素を巻頭と巻末で丁寧に説明していて、各教材のページには特に必要となる要素が明示されているところも特徴的だと思っている。

ほかの委員からもあったが、創作教材では、2次元コードから利用できる創作ツールの使用によって、タブレット端末を活用した音楽作りの学習が充実したものになることが期待できると思った。

では、皆さん、教育芸術社を推されているため、音楽の一般については教育芸術社を採択したいと思うが、よろしいか。

委員一同

はい。

教育長

続いて、音楽の器楽合奏になる。

仲山委員、お願いします。

仲山委員

教育芸術社を推薦する。学びのコンパスというところで、生徒同士が一緒に試したり意見を述べ合ったりしながら、よい表現を見つけ出す活動があるのがいい工夫だと思った。

それから、アンサンブルで取り上げている楽曲が多岐にわたり、興味関心を持つのではないかとされる。

教育長

続いて、岡田委員、お願いします。

岡田委員

第1候補に教育芸術社を推薦したい。例えば、24ページの「ふるさと」という曲をアルトリコーダーで演奏する時に、二次元コードを利用して、ピアノの伴奏を聞きながらアルトリコーダーの練習ができる。自分一人で学習する時もとてもよい工夫だと思った。

それから、篠笛の学習で、二次元コードによって可能な学習が2社で大きく異なっていた。教育芸術社では、指を使わなくても、息の吹き込み方で音が大きく変化することを学ぶことができたかと思う。

また、尺八の吹き方の解説で、二次元コードの内容がとてもすばらしいものだった。立ち方や、口の形と呼吸、音の出し方の3つについて、それぞれの動画で説明している。これが非常に分かりやすく、生徒が尺八を吹いてみたいという気持ちにきつたんだろうと思った。

これらの点から、教育芸術社を推薦した。

教育長

では、小林委員、お願いします。

小林委員

教育芸術社を推薦する。器楽の教科書として、打楽器が5ページにわたり15種類掲載されている点でも、こちらを推薦させていただくポイントとなった。

また、音楽の教科書として、一般、器楽ともに同一社を使用することで、統一性を持たせることができるのではないかと考え、こちらを推薦させていただいた。

教育長

では、森山委員、お願いします。

森山委員

私は、教育出版社を推薦する。どの楽器についても豊富な資料と写真が掲載されていて、分かりやすいと思った。生徒のよく知っているような曲もたくさん取り上げられて、工夫されていた。

また、奏法やそのときの姿勢なども具体的で分かりやすかったと思う。

音符を差し替えての作曲など、興味深く、自宅でも取り組める内容になっていると思った。

教育長

私は、教育芸術社を推薦したい。教育芸術社は、主体的・対話的で深い学びを実現するために、「学びのコンパス」というのを要所に取り入れている。様々な打楽器の奏法が掲載されていて、アンサンブルを行う際に活用されることが期待できると思う。

それから、リコーダーの運指や、ギターやキーボードのコード表が見開き1ページで分かりやすくまとめられていること、2次元コードから多くの楽器の伴奏を流すことができるため、自身の課題に応じた練習が、学校ではもちろん、家庭でも可能になることも特徴的だと思って、推薦をした。

音楽の器楽合奏については、4名の方が同じご意見のため、教育芸術社を採択することによってよろしいか。

委員一同

はい。

教育長

続いて、美術である。

岡田委員からご発言をお願いします。

岡田委員

第1候補に日本文教出版、第2候補に光村図書を推薦したいと思う。

どの教科書もそれぞれに工夫された特色があって、いずれにしてもとても素晴らしい内容だった。生徒が学習を進める際の視点の設定や、学習を助ける発問とQRコンテンツの充実度を考慮すると、日本文教出版社を第1候補として推薦したい。

もう少し具体的に述べさせていただきたい。日本文教出版社の推薦理由の一つとして、水墨画についての扱いを見てみた。QRコンテンツについては、水墨画を比較すると、開隆堂も素晴らしい内容が載っていて、よさを感じたが、日本文教出版社のほうが分かりやすい扱いになっていたかと思う。

屏風に風神雷神が描かれているが、その特徴を強調して取り上げて、屏風に描くことによって表現できることに着目させた点はとてもいいと思う。また、QRコンテン

ツに示されているとおり、実際に教科書の風神雷神図を折って、屏風のように見ることができ、その見え方の違いが体感できるように工夫してある点もとてもいいと思う。

最後に、実技教科で私が最も大切にしたいと思うことは、子供たちがある程度の自由さを持って、安全に学習を進められる環境を整えることだ。そのためには、作業前に行う安全指導、これを先生方がやっていただくことは極めて大切だと思う。この点でも、安全指導に配慮されている教科書だと思った。

光村のほうもQRコンテンツはとてもよかった。だから、どちらがいいかすごく迷ったが、全体的に考えて、日本文教出版を推したいと考えた。

教育長

続いて、小林委員、お願いします。

小林委員

第1候補に光村図書を推薦させていただく。資料が多様で、様々な方向性の学習展開ができるのではないかと考えた。美術では、生徒の数だけ鑑賞したいと思うところがある。表現を通じて作品を作るということも生徒の数だけあり、正解がないのではないかというぐらいいろんな作品が出てくる。鑑賞と表現をする上で工夫ができるような、手助けができるような、生徒にヒントを与えていけるような教科書の内容になっているのではという点で、第1候補に光村図書を推薦させていただく。

次に、第2候補として、日本文教出版を推薦させていただく。先ほど委員からもあったが、風神雷神については他社も載せているが、やはり屏風折りができること、直接自分の手で触って、自分の感覚で折れるというところが、すぐ子供たちの記憶にも残りやすく、勉強という意味ではすごくいいのではということで、こちらを第2候補とさせていただいた。

教育長

続いて、森山委員、お願いします。

森山委員

美術は、描くことや造形、鑑賞にとどまらず、豊かな情操を培うことが目的であろうと思う。自分の見方や感じ方を大切にしながら、自分で考え発想し、工夫して創造する表現力、鑑賞力を育成することが大切だろうと思う。

作品の印刷も鮮明で、文字の字体も読みやすいのがよいのではないかと、光村図書を推薦する。

表紙を開けると、「美しい」という言葉が飛び込んできた。人は美しいと思うことができるだけでなく、自身で美しいものを作り出してきた。美しいものは時代を超えて生き続け、心を結びつけるというメッセージに、美術の力とその喜びを感じるものだった。

掲載されている絵は、ページいっぱいの作品が多かった。特に岡本太郎の「明日の

神話」は、壁画と世話しなく行き交う現代の人々を同時に見せ、作者が時代を超えて現代の人々に呼びかけているようだった。

また、日本の絵画を楽しむというページは、ざらざらした紙質にし、日本の何々という雰囲気を醸し出していると思った。

教育長

第2候補はなしでよろしいか。

森山委員

はい。

教育長

では、仲山委員、お願いする。

仲山委員

美術は、表現や鑑賞を通して、美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指している。その中には、感性を豊かにし、情操を培うことも含まれている。このような点を踏まえて、選択した。

第1に開隆堂を、第2に光村図書と日本文教出版を推薦する。

どの教科書も毎時間の学習の目標が明記されていて、かつ、資料も厳選されていると感じた。その中で、開隆堂は、面白そうだな、やってみようかなと感じさせるページが多かったと思う。

それから、取り上げた写真や作品の選択や大きさ、レイアウトが適切だったと思われる。

また、どのような視点で創作したり、資料を見ればよいか、ポイントが示されていた。

光村図書は、デジタルコンテンツの内容と用途が二次元コードのところに記載されているので、活用しやすいと思う。それから、デジタルコンテンツの中に入っている全国の生徒作品は、とてもよいと思う。

日本文教出版は、各時間の初めに発問があり、生徒の感性を引き出すのに効果的であると思う。また、レイアウトも見やすいものになっている。

教育長

では、私から。私は、第1候補を光村図書、第2候補を開隆堂としたい。

まず、光村図書は、各題材において表現と鑑賞の相互の関係が図られていて、1つの題材の中で一体的に学ぶことができる構成になっている。

また、題材で育成する3つの資質・能力について、題材名の右側に「目標」として示しており、生徒が本題材で何を学ぶのかが明確になるよう工夫されている。

さらに、各題材に2次元コードが掲載されていて、全国の生徒が作成した作品をデジタルコンテンツで鑑賞できるということは、生徒の作品作りの参考になると考えて

いる。

光村図書だけ教科書とは別に資料というものが用意されていて、作品を作る上で必要な技法や安全面についての配慮が豊富に掲載されていることも特徴的かと思った。

第2候補の開隆堂についても、題材で育成する3つの資質・能力について、ページ上部に「学習の目標」として示しており、授業の中で生徒が今何を学んでいるか、この学習で何が身につくかを意識できるような構成となっている。

また、先生と生徒のキャラクターを通して、造形的な視点や学びを深められるヒントが紹介されている。

デジタルコンテンツは、学習用具や技法について紹介した動画や、こちらも生徒作品が多数紹介されていることから、第2候補として挙げさせていただいた。

皆さん、光村図書を第1候補または第2候補として挙げていただいているので、美術については、光村図書を採択させていただきたいが、よろしいか。

委員一同

はい。

教育長

続いて、保健体育である。

小林委員からご発言をお願いします。

小林委員

東京書籍のみを推薦させていただく。

教科書は、保健編が先で体育編が後になっている。今現在とても重要視されている異常気候に対しても、子供たちに十分注意喚起ができる。季節ごとの災害時期に合わせて授業が組み込まれていくことが、子供たちに、より身近にいろいろな対策だったり、これからもやっていかなければいけないことだったり、注意喚起も込めて授業を進めていけるのではないかという点から、東京書籍一択とさせていただいている。

教育長

続いて、森山委員、お願いします。

森山委員

保健体育、体育分野では、授業の際に教科書を見ながら実技を学ぶという時間はそれほど多くないのではないかと思いますし、実技の際に教科書を持参して見ながら学ぶという時間は多くないと思う。しかし、実技に関する理論を生徒が学ぶ際に教科書が主たる教材であり、こうしたことから、体育が得意な生徒も、苦手意識を持っている生徒も、自宅などで自主的、主体的に学ぶ際に、分かりやすく、励ましてくれるような教材が教科書であることが大切と思った。

スポーツは生涯にわたって楽しさや喜びを与えてくれるような構成内容となっていることが重要ではないかと思った。

第1候補に東京書籍、第2候補に大修館を選んだ。

東京書籍の場合は、未来とSDGs、感染症やスポーツが取り上げられていた。保健体育の学習方法では、課題学習、情報収集、事例などを用いたディスカッション、実技、ブレインストーミング、ロールプレイングなどについて説明してあった。

また、学習の課題や解決、活用と、1時間の主な流れが示されており、学びの要点をつかみやすいと思った。

大修館のほうは、まず、「共生社会をつくるために」というページがあり、LGBTQの有名人の方や、ダウン症の金澤翔子さんの力強い書が印象的だった。

「心身の発達と心の健康」というページでは、社会性は生活経験によって発達する、社会性と自立の発達は関係するなど、社会性についての記述があった。社会性は、たとえ障害があっても、社会との適切な関わりがあることで発達していくものと思う。そして、自立は、一人で生きていくことではなく、助けたり助けられたりしながら、主体的に考え、行動することが本当の自立だと定義している点が、まさに共に生きる社会へ近づくことなのだと学ぶことができると思った。

教育長

続いて、仲山委員、お願いします。

仲山委員

学習指導要領では、保健体育は生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成することを目標に掲げている。ただし、学習内容を単に記憶にとどめるだけでなく、健康・安全について科学的に理解することを重視している。このような点を踏まえ、選択した。

第1候補にGakken、第2候補に大修館を推薦する。

Gakkenは、毎時間の導入部分に「ウォームアップ 課題の発見」として、実生活に関連した問いかけが具体的で考えやすく、学びにうまく誘導していると思う。

「学びを生かす」コーナーでは、学んだことの確認と実生活への活用に効果があると思う。

また、「もっと 広げる 深める」では、悩みの相談、薬物乱用防止策、自然災害対策に関する具体的対応が載っていて、これもよいと思う。

大修館は、性被害に遭わないようにするため、手口の実例が載っていて、非常に役立つと思う。また、性の多様性に関する4種の分類も分かりやすい。それから、導入部分の問いかけも非常に考えやすいと思う。

教育長

続いて、岡田委員、お願いします。

岡田委員

私は、第1候補に東京書籍、第2候補に大修館を推薦したいと思う。

第1候補の東京書籍だが、先ほどの小林委員のご発言にもあったように、学習内容の配列が、季節や気候、水泳指導や交通事故などの時期を踏まえて学習できる配列になっており、他社と比べると、とてもよいと思う。

また、2つ目に、実生活に基づいた課題設定となっていて、学ぶ意義や意欲につながると考える。

それから、二次元コードのデジタルコンテンツについてだが、選手や専門家にインタビューした内容も学習できるなど、かなり完成度の高いものになっていると感じた。

それと、性の多様性に関する学習で、体の性、心の性、好きになる性、社会的な性の4つの項目を取り上げて学習しているが、これも小学校の保健の教科書の取上げ方にも合致していて、小学校の関連を考えると、こういった取上げ方はいいと思う。

あと、喫煙や飲酒、薬物乱用の学習で、乱用した場合にどうなるかの事例を紹介したり、断り方も具体的に掲載している点などもとてもよいと考えた。

大修館についてだが、東京書籍の教科書と同様にいろいろな工夫があり、とてもいい教科書だと感じた。例えば、薬物を勧められたときの対処の仕方が具体的に書かれている点はとてもよいと思った。断りにくい人間関係とか、社会的な要因を挙げて断り方を示している点は、高く評価したいと思う。

これらを総合して、東京書籍を第1候補とした。

教育長

では、私から。私は、第1候補を大修館、第2候補を東京書籍としたい。

大修館は、見開きのページの最初に、「課題をつかむ」として、課題に関連した問いがあり、その日に学ぶ内容を生徒に意識させている。「課題をつかむ」、「きょうの学習」、「学習のまとめ」の組立てが非常に分かりやすいと思った。「学習のまとめ」では、学んだことを基に、自身でさらに考えたり、グループで話し合うことができるようにしている点も評価した。

それから、図が非常に多く示されていて、分かりやすいと感じたこと、何人の委員の方もおっしゃられているが、性的マイノリティーの人たちが考える不安や悩みについても取り上げていることから評価をしている。

第2候補の東京書籍は、保健分野の章の配列が工夫されていて、2年生の「傷害の防止」が、交通事故の多い年度当初と水泳指導前に学習することができるようになっている。それから、3年生の「健康と環境」を年度当初に配列することで、熱中症対策等に生かすことができるなど、工夫が見られること、それから、1ページの構成が、基本的に本文が左側に来て、資料が右側に配列されている。これも非常に見やすいと思い、評価している。

まとめると、保健体育については、4人のうち3人の方が第1候補に挙げられていて、私が第2候補に挙げている東京書籍を採択したいと思うが、よろしいか。

委員一同

はい。

教育長

続いて、技術・家庭の技術分野である。
では、森山委員、願います。

森山委員

技術・家庭では、東京書籍のみを推薦する。技術分野のガイダンスは、まず、SDGsとテクノロジーの結びつきを説明していた。持続可能な社会のために、自分たちにどのようなことができるかを考えようと投げかけていた。

最適化の視点では、多角的に考える「最適化の窓」という説明で、ページが丸くくり抜かれていたりするのも、理解のための工夫がうかがえると思った。

また、問題の発見と課題の設定では、フィッシュボーンで構造化し、解決に結びつく方法を示してあった。このような問題解決のためのツールが示してある。

学習のまとめのページがあり、確かめる、深める、そして、生活に生かそうという手順があり、とても実践的だと思った。

教育長

続いて、仲山委員、願います。

仲山委員

技術分野の目標は、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を育成することである。

これを踏まえて、第1候補に開隆堂、第2候補に東京書籍を推薦する。

どちらも勉強しやすく、取っつきやすいと思われるが、開隆堂のガイダンスや実習例では、興味関心を引く分かりやすい題材が取り上げられている。安全に関するイラストも分かりやすいと思う。また、全体的にレイアウトがすっきりしていて、本文が読みやすいという特徴を持っている。

ただ、技術分野の専門用語は読み方が難しいので、誤った呼び方を覚えないように、振り仮名を振ってもらいたいと思った。

東京書籍もよかったが、全体的には、開隆堂の方がいいと感じた。

教育長

続いて、岡田委員、願います。

岡田委員

技術・家庭の技術分野については、第1候補に東京書籍、第2候補に開隆堂を推薦したいと思う。

東京書籍の教科書だが、開隆堂とともに、とてもよい構成で、両方ともいい教科書だと思った。技術は、ただ単に物を作る作業だけではなく、生活の中から課題を見つけて、よりよい生活を送るためにはどのように解決したらいいか、その中で、結果と

して物を作るという流れがあった。両者ともにとてもよい教科書という印象を持っている。

特に東京書籍では、問題発見と課題の設定から始まって、問題解決の評価、改善・修正まで、生活に結びつけながら、例えば、マルチラックの作製の動機をしっかりと把握させた上で、作品の構想、アイデアのスケッチ、設計、製図を具体的に学ぶことができる。こういう教科書になっている流れはとてもよいと思う。

開隆堂も、東京書籍と同じようにいいが、比較すると、設計や作業手順などを説明しているページが若干少なく、この分、少し物足りなさを感じたところである。

全体としてとてもよいが、順位をつけると東京書籍になった。

教育長

続いて、小林委員、お願いします。

小林委員

第1候補として、開隆堂を推薦させていただく。開隆堂出版は、小学校や他教科とのつながりを示して、学年、教科横断的なカリキュラムが立てやすいような配慮があると感じた。安全面でも、個々の学習面と関連づけて、随所にマークを使って示してある部分が、生徒に見やすいのではないかとと思う。

第2候補として、東京書籍を推薦する。目標が明確に書かれているので、授業に入りやすいのではというところで、第2候補に推薦させていただいた。

安全面でも随所にマークをつけて注意喚起をしているので、授業に入るときに子供たちが目にして、ここは気をつけなければいけないのが明確になっている点が良いと思った。

教育長

では、私から。私は、第1候補を開隆堂、第2候補を東京書籍としたい。

開隆堂は、初めて技術を学習する中学生にとって、技術の役割、技術の見方、考え方、問題解決の流れが分かりやすく端的に示されていて、生徒が目的を持って学習を進めることができるようになっていっていると思う。

また、ものづくりの実習で最初に学習する製作図において、基本的な立体を用いた説明で、書き方を分かりやすく示したり、同じ作品を違った書き方で示したりしているところも特徴的かと思う。

内容は、「学習の目標」、「学習課題」、「CHECK」という自己評価で構成され、基本的に見開きページでまとめられており、系統的に学習が進められるように工夫されていると思った。

第2候補の東京書籍は、中学生の技術の学習の導入で、様々な技術の事例を示した写真や、技術の見方・考え方を考えるためのイラストを用いた資料を掲載し、興味関心を高めながら学習を進めることができるように構成されている。

また、学習の方法の説明の中で、思考ツールの活用について掲載されており、学び方についても資料を示しながら説明しているところが特徴的かと思って、第2候補に

した。

まとめさせていただくと、5人のうち3人が第1候補として挙げていること、お一人が第2候補として挙げていることで、技術分野については、開隆堂にさせていただきたいと思うが、よろしいか。

委員一同

はい。

教育長

では、続いて、技術・家庭の家庭分野である。

では、仲山委員からご発言をお願いします。

仲山委員

家庭分野の目標は、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて生活を工夫し、創造する資質・能力を育成することである。

第1候補に開隆堂、第2候補に東京書籍を推薦する。

開隆堂は、幼児はなぜ泣くのか、実験を伴う目に見えない栄養素の働きなど、生徒の関心・興味を引き出す問いかけや内容が多いと思う。また、栄養素も理解しやすく提示してある。

それから、各章で持続可能な生活に関する事柄を取り上げ、プラスチック汚染に関しては、洗濯とマイクロプラスチック汚染の関係も取り上げている。そういった点でもよいのではないかと思う。

東京書籍もよかったが、全体的には開隆堂のほうが優れていると思った。

教育長

続いて、岡田委員、お願いします。

岡田委員

家庭分野については、開隆堂を第1候補、東京書籍を第2候補にしたいと思う。

技術分野の教科書と同様に、どちらの教科書もそれぞれ工夫があって、甲乙つけ難い、とても優れた教科書だと感じた。

開隆堂についてだが、特に目を引いた点が、幼児との触れ合い体験で、中学生にとって幼児の触れ合い体験の意味が書かれていて、この視点は、中学生が幼児と触れ合いを経験する上でとても重要だと思うし、他社にはない記述であったことが推薦の理由の一つである。

それから、幼児にとっての遊びの意味というのを分かりやすくまとめていた。

また、それぞれのページに発表しようとか、何をして遊ぶとか、考えてみようなどがある、生徒に考えさせる課題が適切であったかと思う。

東京書籍のほうだが、食事の役割について、6項目のイラスト入りで紹介していて、食生活を考える意味がここで酌み取れたりするなど、とてもよい内容だった。また、

「幼児の生活と遊び」では、説明文がしっかりしていて、生徒にとっても分かりやすい内容ではないかと思うが、一方で、生徒に考えさせる問いをもう少し増やしたほうがよいのではとも感じた。

そういうことを踏まえて、優れた教科書なのだが、どちらかというと開隆堂のほうがよいと考えて、第1候補に推薦した。

教育長

続いて、小林委員、願います。

小林委員

第1候補に開隆堂出版を推薦させていただく。目に見えない栄養素のページで、生徒の興味を引くと考えた。人間の体をつくる上で最も重要な食物を、目に見えない違う角度、栄養素という角度から子供たちに興味関心を持たせることで、とてもいい学びにつながるのではないかと思います、開隆堂を推薦させていただく。

第2候補として、教育図書を推薦させていただく。クレジットカードや消費者マークなどについての資料が充実している点で、こちらを第2候補に推薦させていただいた。

18歳で成人になった途端にクレジットカードも自らの意思で作ることができるため、とても重要な項目ではないかと考え、こちらを推薦させていただく。

教育長

では、森山委員、願います。

森山委員

家庭分野では、家族や家庭生活、食生活に関わる生活、消費生活・環境といった、まさに日常生活に直結した内容について学習する教科であると思っている。

そこで、第1候補に開隆堂、第2候補に東京書籍を推薦させていただく。

開隆堂では、「自立しともに支え合う社会へ」と、自立と共生を考えるページがあった。また、生活の課題と実践の進め方の例が豊富で、困ったときはしっかり手続きしようという社会福祉の視点があった。ヤングケアラーを意識した内容ではないかと思った。

デジタルコンテンツも多く、動画のみでなく、振り返りや注意点チェックができる工夫は、自学にも有効であると思った。

次に、東京書籍だが、サブタイトルに「自立と共生を目指して」とあり、1章では自分を取り巻く人々との関わりが示してあった。

6編3章では、持続可能な生活、地域生活についてなど、学んだことを社会に生かして働いている人々を紹介していた。

また、消費者として意思決定する際の自衛、トラブル対策などが示してあった。

調理実習では、どの教科書にも肉の調理のところで豚のショウガ焼きが紹介されていた。出来上がり写真があり、豚のショウガ焼き1皿のみのところもあるが、東京書

籍には、周りにご飯、汁物、副菜等もお膳にうっすらと写り込んでいて、まさに自然な食卓での食事のイメージが提供され、より实际的で大事なことと思った。

教育長

では、私から。私は、第1候補を開隆堂、第2候補を東京書籍としたい。

まず、開隆堂については、学習指導要領で示されている、A、家族・家庭生活、B、衣食住の生活、C、消費生活・環境の3つの内容を関連づけて学習できるように示していて、生徒がこういったものの関連を意識しながら学習できるようになっていると思った。

さらに、ABCのそれぞれの内容は、実習の各工程や、幼児の成長の発達段階などを示す時間軸を示していて、その段階ごとの内容が整理されており、分かりやすい記載になっていると思った。

また、食品の栄養素の学習や幼児との触れ合い体験においては、具体的なイメージを持てるように、イラストの工夫、それから、豊富な写真の掲載があり、個々の理解促進が期待できると思った。

第2候補の東京書籍については、児童との触れ合い体験において、安全面や衛生面について具体例が多く示されていたり、日常食の献立において調理の目安が分かるように時間が明記されていたりするなど、生徒が主体的に取り組みやすくなっていると考えた。

まとめると、全ての委員の方が開隆堂を第1候補に推薦していただいているので、家庭分野については開隆堂を採択したいと思うがよろしいか。

委員一同

はい。

教育長

続いて、英語である。

岡田委員、ご発言をお願いします。

岡田委員

英語の教科書については、私が捉えている英語学習の課題とその解決が図られている教科書という視点で採択を考えたのだが、具体的には次のとおりである。

小学校に外国語科が導入されたことを踏まえて、小学校における学習との接続に一層留意する必要がある。小学校までの学習の成果が中学校の英語学習に円滑に接続されて、中学校で育成を目指す資質・能力を生徒が確実に身につけることができるように工夫されている必要があると思う。

また、中学校学習指導要領解説英語編によれば、中学校の授業では、依然として文法、語彙等の知識がどれだけ身についたかという点に重点が置かれて、外国語によるコミュニケーション能力の育成を意識した取組、特に話すことおよび書くことなどの言語活動が適切に行われていないことや、やり取り、即興性を意識した言語活動が十

分ではないこと、読んだことについて意見を述べ合うなど、複数の領域を統合した言語活動が十分に行われていないことなどの課題があるとしている。これは学校で改善を目指していると思うが、まだまだこういう課題があると思う。

このような課題を踏まえながら、これから使う教科書はどうあるべきかという点で検討してきた。

その結果、第1候補に光村図書、第2候補に東京書籍を推薦した。

特に光村図書では、1年生の冒頭の20ページまでで小中の接続を図っている。これは東京書籍も大分ページ数を割いて、小中の接続を図っている。

そのほか、発音のチェック機能が光村図書にあったりするなど、とてもよいと思った。

先ほど挙げた英語の授業の課題に対応できるよう、使いやすく工夫されている即興でのやり取り用のトーク教材「Let's Talk!」があるなど、言語活動に対応した教科書になっている点はとても優れていると思う。

東京書籍だが、私が重視した小学校との接続に関しては、先ほどの光村図書と同じように、かなりのページ数を使って小学校の学習の振り返りをさせている。

また、QRコンテンツに関しても、自宅での復習や授業で分からない箇所をもう一度学び直したいときに活用できる機能があって、これもとてもよいと思う。

一方で、読む活動が多く、話す活動が少ない印象があり、先ほど申し上げた課題に対応するとなると、光村図書のほうがよいと考えた。

教育長

続いて、小林委員、お願いする。

小林委員

第1候補に光村図書を推薦させていただく。小学校からのつながりで学習できるという点が一番大きいポイントとなった。

4技能の聞く、読む、書く、話すの習得がスムーズに図られるような教科書作りがされているのも特徴かと思う。

他社も取り入れている発音チェックも、大きなポイントの一つである。

第2候補として、三省堂を推薦させていただく。重要表現など、強調したいところが目立つように作られているところが一つのポイントかと思っている。

全体的にバランスよく作られており、こちらも他社が取り入れている発音チェックが入っているので、第2候補とさせていただいた。

教育長

続いて、森山委員、お願いする。

森山委員

小学校でも英語が導入されており、中学生になる段階で、既に生徒によっては英語に関する興味や関心もかなり異なっているのではないかと思います。そこで、再度振り返

り学習ができて、英語に関する興味や関心を高めていける教材がいいと思った。

第1候補を光村図書、第2候補を三省堂にさせていただいた。

光村図書は、小学校教科書とのつながりのある登場人物が出ているため、これまでの学習とのなじみがよいと思った。

単元ごとの読む、聞く、話す、書くの4技能の習得ができるようになっていた。

生徒にとって興味を引く題材、シンガポール旅行、盲導犬、サファリツアーなどが掲載されていた。

デジタルコンテンツでは、発音チェック機能、思考ツール等のデジタル教材の特性を生かしていた。

三省堂については、やはりこちらも生徒の興味関心を引き出す資料や教材等の工夫があって、生徒が主体的・対話的に学べるのではないかと考えた。具体的には、公平とは何か、世界で活躍する日本人の英語を学ぶ理由、インド映画、落語などである。

学習のポイントが明快で、重要表現など目立つように作られていた。

巻末の資料には、英語の歌詞や基本文のまとめもあった。

教育長

続いて、仲山委員、お願いする。

仲山委員

英語は、学習指導要領では、グローバル化の急速な進展を踏まえ、コミュニケーションを図る資質・能力の育成が目標になっている。そのため、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ必要があり、外国語で聞いたり話したりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養うことになっている。外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深めることなども目標に挙げられている。

これらのことを実践するのにふさわしい教科書として、第1候補に光村図書、第2候補に三省堂と教育出版を推薦する。

これら3社は、いずれもデジタル教材として発音チェック機能を搭載しており、伝わる発音を練習できる点で優れていると思う。

その中でも、光村図書を第1候補に推薦したのは、世界中の中学生が出てくるページが多く、異文化理解につながるのではないかと、また、デジタル教材で本文に即したドラマが実写版であり、イラストより学習意欲を高める効果があると思われる。

これまでの英語学習の文法や語彙等の知識重視からの脱却が課題の一つになっているが、光村図書の文法のまとめは、シンプルで分かりやすいと感じた。

教育長

では、私から。私は、第1候補を光村図書、第2候補を三省堂としたい。

光村図書は、各単位における到達目標、ゴールが明確だと思った。ゴールに向かって4技能を伸ばす活動がバランスよく組み込まれていると思った。

実写ドラマや発音チェック機能も搭載しているところも評価している。

それから、「Let's Talk!」という、即興で話す、やり取りができる会話集もある。

こういったことから、光村図書を第1候補としている。

第2候補の三省堂については、光村図書と同様に、到達目標が明確であること、教科書本文のストーリーが中学生目線で興味を持ちやすいようになっていること、それから、小学校で既習の表現や単語を使ったゲームなど、楽しく取り組める活動に力を入れていて、小学校との連携の工夫が充実していること、こちらを第2候補とさせていただいた。

迷ったが、やはり4技能をバランスよく育成する意図が見える光村図書を第1候補としたい。

ということで、委員の皆様が光村図書を第1候補に推薦していただいているので、英語については光村図書を採択したいと思うが、よろしいか。

委員一同

はい。

教育長

では、最後、道徳である。

道徳については、小林委員からご発言をお願いします。

小林委員

第1候補に光村図書を推薦させていただく。漫画教材が11個と多く、視覚的興味を持たせやすいところと、相互理解、公平、公正、生命の尊さもしっかり記載している。また、朗読の機能も2次元コードに入っているため、みんな公平な朗読が耳に入るのでないかというところで、光村図書を第1候補に推薦させていただく。

第2候補としては、東京書籍を推薦させていただく。書き込みができるところが多いので、復習しやすいという点がポイントとなった。

生命の尊さについてもしっかり載せていて、心情円の使い方がとても分かりやすいので、子供たちに視覚的興味を持たせやすいのではないかと、というところで、第2候補とさせていただいた。

教育長

続いて、森山委員、お願いします。

森山委員

道徳は、第1候補に光村図書、第2候補にあかつき教育出版を選んだ。

光村図書では、「道徳 道案内」で、これから1年間で学ぶことのプロセスが非常に分かりやすく表されていると思う。

表紙をはじめ、イラストがとても優しい雰囲気をつくっていると思う。

道徳で大切にしたいこと、自分に問う、友達と問いつく、生き方を問うなど、具体的にプロセスが示されていた。

3年生の終わりの「真理の探究、創造」のページでは「学び」の本質を探ろうと、

そもそも学びとはどういうものかと投げかけていた。これは道徳のみではなく、様々な教科、また、これから学ぶことについて考えさせられるものであると思った。

また、「相互理解、寛容」という項目においても、教科書の中で一番多く取り上げられていると思った。

命の尊さにおいても大きく取り上げられており、自分のみならず、他者を大切にすることを教えていた。

次に、あかつき教育出版である。「道徳の時間は、「自分を見つめ、考え、生きる」時間」とあり、さらに自分と対話する時間とあった。

考え、議論するという授業のために、登場人物の心情を理解するだけでなく、道徳を通してどのような自分を知り、どのような人を知っただろうと投げかけていて、テーマがはっきりしていた。

特に、「「いじめ」を考える」、「共に生きる社会」、「情報モラル」という章は大切であると思った。

教育長

では、仲山委員、お願いします。

仲山委員

道徳は、他者とともにによりよく生きるための基礎になる道徳性を養い、いかに生きるかを自ら考え続ける態度を養うことが目標になっている。しかし、特定の価値観を押しつけたり、主体性を持たずに行動するような指導は避けなければならない。

また、いじめの問題をはじめ、道徳的価値を形成するのに必要な様々なテーマが取り上げられている必要があると思う。

これらの観点からは、どの教科書もよくできていると思われるが、第1候補に東京書籍を、第2候補に光村図書と日本文教出版を推薦する。

これら3社は、心にすっと入ってきて、自然に深く考えさせられる内容が多いと感じた。また、発問も適切であると感じた。

その中で東京書籍を第1候補に選んだのは、喫緊の問題である自然災害から命を守る行動や、地球環境問題を1年生から丁寧に取り上げている点と、内容に集中しやすいレイアウトで文字も大きく読みやすいと感じたからである。

ただ、欠点としては、教科書のサイズが大きいところがあった。

教育長

では、岡田委員、お願いします。

岡田委員

少し長くなるが、お許しいただきたい。

道徳の教科書についてだが、実際の生活においては、複数の道徳的価値が対立し、葛藤が生じる場面が数多く存在していて、1つの答えのみが存在するわけではない。生徒は時と場所などに応じて、複数の道徳的価値の中からどの価値を優先するか、そ

ういう判断を迫られることになる。

こうした問題や課題について、できるだけ多面的、多角的に見て、主体的に生徒が判断し、よりよく生きていくための資質・能力を養うことが道徳の中では大切である。こういう能力を養うためには、どうしても問題解決的な学習が重要と考えている。

もう少し具体的に述べたいと思うが、道徳科の指導の目指すものは、道徳的価値についての単なる知識理解に終始したり、行為の仕方そのものを指導したりする時間ではなく、狙いとする道徳的価値について、生徒自身がどのように捉えて、どのような葛藤があって、また、価値を実現するのにどのような意味を生み出すことができるかなど、道徳的な価値を自己との関わりにおいて捉える時間になっている。

したがって、主たる教材としての道徳の教科書については、例えば伝記、実話、論説文、物語、詩、劇など、いろいろなものがあって、それらの教材を学習指導で効果的に生かすためには、登場人物の立場に立って、自分との関わりの中で道徳的価値について理解したり、そのことを基にして自分を見詰めることができる教材が求められる。

さらに、教材に対する感動を大事にする展開にしたり、道徳的価値を実現する上での迷いや葛藤を大切にした展開、知見や気づきを得ることを重視した展開、批判的な見方を含めた展開にしたりするなど、学習指導過程や指導方法の工夫ができる教材が求められているのだろうと思う。

このような教材の中には、必ず道徳的な問題があって、生徒はこの問題を把握し、問題意識を持つこと、そして、その道徳的問題に対して、自分との関わりで考えることから始まる。

さらに授業が進んで、自分との関わりで考えることから視点が広がり、物事をより広い視野から多面的、多角的に考えるような先生の発問があって、話し合う中で、人間としての生き方について考えを深め、そして、その問題をまた考えて、相反する価値観の中で揺れ動く自分を見詰めて、自分との関わりで考える授業が求められると考えている。

このようなことができる教科書がとても大切かと思うが、そのためには、リードするような発問よりも、少ない発問を載せた教科書で、先生方がその主発問に対して、自分で考えて導いていけるような教科書が必要だろうと思う。

主発問の特性を見たときに、様々な観点の主発問が各社にあった。「二通の手紙」の例のように、この発問を分析すると、各社の発問はかなり異なっていた。その中で、私が今申し上げたようなことを発問と照らし合わせたときに、やはり一番よいのは東京書籍の発問の仕方だろうと思う。

これが東京書籍を推薦した理由である。

教育長

第1候補が東京書籍。第2候補はいかがか。

岡田委員

第2候補は光村図書である。

私の観点では、光村図書の中心発問はよいと思うが、東京書籍の発問と比べて、少し国語的な問いが多い。中心発問の数は2つだが、見方を変えてとか、つなげようというような問いがあり、道徳的な価値を考えさせるには、少し問いが多過ぎると感じた。だが、教材の扱い方や、教材の内容がよいので、東京書籍、光村とさせていただいた。

教育長

では、最後に私から。私は、第1候補を光村図書、第2候補を東京書籍としたい。

光村図書は、いじめに関連する内容を多く扱っている特徴がある。道徳の時間が特別の教科道徳となった背景の一つとして、いじめ問題への対応がある。自分や他者を大切にすることを育むことは、いじめをなくしていくために極めて有効なことであると考えます。

光村図書は「相互理解、寛容」に関する内容項目が全ての教科書発行者の中で最も多く、学ぶ3年間の中で8教材を取り扱っている。他者を理解することの大切さに特に重きを置いていると感じた。

第2候補の東京書籍は、教科書の冒頭にある「道徳科とは」のページが非常に分かりやすくまとめられていると感じた。

道徳の学習は、他の教科以上に友達の意見を聞き、自分の考えを広めたり、深めたりすることが重要と考える。

東京書籍は、イラストを効果的に活用しながら、道徳の授業の流れについて丁寧にされていること、それから、全ての教材に朗読機能がついていることを評価して、第2候補として挙げさせていただいている。

まとめさせていただくと、道徳については、5人のうち3人の方が第1候補、2人の方が第2候補として光村図書を推薦いただいているため、光村図書を採択させていただきたいと思うが、よろしいか。

委員一同

はい。

教育長

以上で、全種目の採択が終了した。

それでは、各種目で採択した発行者を最初から確認したいと思う。

まず、国語は、光村図書。書写は、光村図書。社会（地理的分野）は、帝国書院。社会（歴史的分野）は、東京書籍。社会（公民的分野）は、東京書籍。地図、帝国書院。数学、東京書籍。理科、東京書籍。音楽（一般）、教育芸術社。音楽（器楽合奏）、教育芸術社。美術、光村図書。保健体育、東京書籍。技術・家庭（技術分野）、開隆堂。技術・家庭（家庭分野）、開隆堂。英語、光村図書。道徳、光村図書。

以上を採択するということによろしいだろうか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、議案第25号については、先ほど種目別に述べた発行者の教科用図書を採択する。

以上で議案を終了する。

(1) 旭丘・小竹地区における新たな小中一貫教育校の設置について〔継続審議〕

教育長

次に、協議案件である。

継続審議中の協議案件1件については、本日のところは継続とし、次回以降に協議を行いたいと思うが、よろしいか。

委員一同

はい。

教育長

では、そのようにさせていただく。

(1) 教育長報告

① その他

教育長

次に、教育長報告である。

本日は口頭報告が3件ある。

光が丘図書館長

美術館・貫井図書館の再整備を進めるに当たって、主に周辺にお住まいの方を対象とする説明会の開催について、口頭にてご報告申し上げます。

この説明会は、練馬区まちづくり条例及び練馬区中高層建築物等の建築に係る紛争の予防と調整に関する条例等により開催するものである。

開催時期は8月下旬頃を予定しており、会場は中村橋駅周辺を想定している。計画概要や平面図、立面図などを用いてご説明する予定である。

現在、関係部署等と具体的な内容を詰めており、詳細が決まったら、委員の皆様へは個別にご案内をさせていただければと思っている。

教育長

住民説明会を開催するという報告である。
何かご質問、ご意見などあれば伺うが、よろしいか。

委員一同

はい。

教育長

それでは、2つ目の口頭報告をお願いする。

保育課長

私から、区立保育園における0歳児の入園募集の停止について、口頭でご報告をさせていただきます。

保育園では、0歳児から5歳児まで受入れを行っていて、各園で年齢ごとの定員設定をしている。

利用を希望される方から毎月保育の申込みをいただいているが、昨今、育児休業制度の定着などによって、0歳児の保育需要は減少している。各園の0歳児の定員が埋まりにくい状況というのが見受けられている。各園からも、もう少し効率的に0歳児を受入れできないかという声も頂戴している。

このために、令和7年度の4月入園の募集に当たって、0歳児保育を行っている区立保育園のうち、3園で募集を暫定的に停止させていただきたいと思っている。

対象園は、光が丘第二保育園、光が丘第十一保育園、富士見台こぶし保育園である。

対象園の在籍児童の保護者の方には、直接お知らせを実施している。

あわせて、本年10月に発行する予定の令和7年度版の保育利用のご案内や区のホームページといったものを利用して区民の方に周知をしていく。

教育長

来年度に向けて0歳児の入園募集を3園で停止するものである。
何かご意見などあるだろうか。

仲山委員

申し訳ない。まだ完全に理解できていないのだが、0歳児で入園したいという方がいなくなってしまったわけではないのか。

保育課長

0歳児で保育を利用される方は、まだ一定程度いらっしゃる。ただ、区のほうで考

えている定員よりも、保育園を利用されたい方が少なくなりつつあるという状況である。

ただ、この傾向については、はっきりとした確証がまだ得られていないこともあり、今回、3園を停止することで、保育の利用にどのような形で反映できるかを確認したい。

仲山委員

特に何を確認したいということか。

保育課長

保育を利用していただく0歳児のご家庭の方に、どのような状況が生じるかを確認したいということである。端的に申し上げますと、やはり各園、定員が埋まらない中で、保育士等の職員を配置しながら、入っていただくのをお待ちしているような状況になる。定員が埋まらなると、定員に合わせた職員を配置している関係上、職員が少し多くなってしまうたり、少し効率性が下がってしまうといった状況もある。そういった園の運営をもう少し効率的にやるためにも、定員の在り方を見定めたいと思っている。

仲山委員

区立なので、今までも職員が働いていたわけである。確かに効率的ではないかもしれないが、利用者がまだいるなら、そこでやっていただいたほうがいいと思うが、どうしても効率を優先されるのだろうか。

保育課長

0歳児の定員が埋まらないのは、公立園、私立園においても同じような状況である。実際に0歳児保育を行っている園は、公立園と私立園合わせて188園ぐらいある。なので、188園それぞれにおいてどのように定員設定をしていけばいいかは、今後の課題になるが、まずは区立園3園のほうで、0歳児を一旦停止させていただくことで、その周辺における0歳児の定員を設けている園の利用者が増えるのか、それとも維持されるのか、そういったことを確認したいという意図である。

仲山委員

本当は預けたいという人がある程度はいると思うが、その方々に対する代わりの救済策みたいなものはあるか。

保育課長

今回、188園、0歳児の保育を実施している園があり、その中で3園を暫定的に選ばせていただいた。この3園の選び方として、近隣に0歳児保育を行っているほかの園が複数あり、利用者の方がそのエリアで0歳児保育を希望されたとしても大きく支障がないといった条件の中で選ばせていただいている。

仲山委員

経済的負担は大丈夫なのか。

保育課長

保育料は、経済的な状況を踏まえてを決定している。また、昨今、保育料の無償化で、かなりの世帯が無償化の対象になっているということもあり、しっかり対応できると考えている。

教育長

この件については、よろしいだろうか。

では、口頭報告の3番目をお願いする。

在宅育児支援担当課長

私から、民設子育てのひろば閉室について、口頭でご報告させていただく。

子育てのひろばは、0歳から3歳児の乳幼児と保護者を対象に、交流の場の提供や子育てに関する相談、情報提供等を行っている。

現在、区内には、区が運営経費を補助している民設の子育てのひろばが16か所あり、このうち2施設が閉室する。

1つ目は、旭町1丁目にある光が丘プレパひろばである。NPO法人が平成20年度から運営しているが、当該法人はもともと子供の外遊び事業を中心に活動している。今般、改めて法人の理念に立ち返り、外遊び事業に重点を置く運営方針とすることから、本年9月末日をもって閉室の申出があった。

2つ目は、南田中1丁目にあるほっぷ・すてっぷである。地域の子育て支援団体が平成19年度からアパートの1室を借りて運営しているが、老朽化による立ち退きの話があり、加えて、運営者が高齢であることから、本年9月20日をもって休室とし、9月末日に閉室の申出があった。

利用者の方には、両施設からお知らせをするとともに、乳幼児親子が遊んだり交流できる近隣施設をご案内する予定である。

今回、2施設の閉室に伴い、民設子育てのひろばは14か所となるため、第2期練馬区子ども・子育て支援事業計画に基づき、現在、運営費助成団体を光が丘、石神井地域において3施設募集しているところである。決定次第、ご報告させていただく。

教育長

よろしいだろうか。

それでは、このほかに委員から何か報告事項はあるだろうか。

仲山委員

最近、報道などでも問題になり取り上げられているが、夏休みで給食がないことにより、子供が、まともなという言い方は悪いが、食事が取れなかったり、あるいはお母さんが働きに出ているので、準備がうまくできないということが問題になっている

が、実際に何かそういう情報や声が来ているか。

子育て支援課長

私ども、児童館等を運営しているが、聞いている範囲では、直接、児童館の職員に子供たちから相談があったとは伺っていない。地域で、例えば子供食堂といった事業があるときに、周知等、ご要望があれば協力をさせていただくといった形で対応している。

仲山委員

児童館に行くとお昼が食べられるような、そういうシステムになっているのか。

子育て支援課長

現在、区としては、学童クラブや、保育園といったところを利用しているお子さん以外に昼食を提供する仕組みはない。

そういったところについては、ご家庭でお弁当を出していただいたり、ご家庭である程度お声をいただければ、夏休みも学校で月曜日から金曜日までひろばを開いているため、見守りの中でお弁当を取っていただくという対応は可能である。

教育長

ほかに委員の皆様から何かあれば。よろしいだろうか。

委員一同

はい。

教育長

事務局から、その他の報告はあるだろうか。

事務局

ほかにはない。

教育長

では、これをもって第15回教育委員会定例会を終了する。